

授業科目名	教育史				
担当教員名	柴沼真				
学年・コース等	3年	開講時期	前期	単位数	2
授業形態	配布資料を下に講義を行うが、その内容についてディスカッションを行う。なお、授業前にコメントペーパーを配布し記入し、授業後に提出して、次回に返却する。 診断的評価と形成的評価を実施する。				
実務経験のある教員による授業科目	該当しない				
実務経験の概要					

授業概要

教育とは、獲得した文化的遺産を後の世代に伝え、後の世代を社会化する行為といつてよい。その意味で自分たちの先達にどのような教育思想家がいて、自分たちの受けた教育がどのような思想から影響を受けて成り立っているのかということ把握しなければならない。ところで日本における近代以降の教育制度は西欧の影響を強く受けている。よって本講義ではまず西欧教育史について概観し、その上で日本の近代以降の教育史の軌跡をたどり、教育史の基本的な知識の習得をし、その上で自らの教育を相対化できるようにすることを目標とする。

養うべき力と到達目標

確かな専門性

- 1 . DP2. 専門的知識・技能、職業理解

具体的内容：

教育の歴史について

目標：

教育の歴史を現代の問題と関連させて考えるようになる。

汎用的な力

- 1 . DP4. 課題発見

歴史的相対化ができるようになる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
- ・問答法・コメントを求める
- ・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)
- ・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
- ・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)

課題や取組に対する評価・振り返り

- ・実技・実習後、全体に向けてコメントします
- ・提出物にコメント・評価をつけて返却します

成績評価

注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を行わない。

成績評価の方法・評価の割合

評価の基準

形成的評価を用いた期末レポート	70%	： 目標に対して、授業を通じて学びが形成されているか。
学習ノート	30%	： 学習を通じて、どのような問いが形成されたか。

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

授業中に指示します。

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 火曜日3時限目
 場所： 研究室
 備考・注意事項： 質問等は、メール：shibanuma@g.osaka-seikei.ac.jp までご連絡ください。また、研究室にお気軽にどうぞ。

授業計画

授業計画		授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	教育史を学ぶにあたって 歴史を学ぶことの意義とは？ 歴史を学び事の意義を学びます。	教育と歴史との関係性を考える。 4時間
第2回	古代・中世の教育史 古代の教育史を学びます。	シャトルシートへのコメントと本時の内容とをつなげて考える。 4時間
第3回	宗教改革とその周辺 宗教改革が教育に与えた影響を学びます。	シャトルシートへのコメントと本時の内容とをつなげて考える。 4時間
第4回	市民革命と教育 市民革命がどのように教育に影響を与えたかを学びます。	シャトルシートへのコメントと本時の内容とをつなげて考える。 4時間
第5回	公教育思想の誕生と展開 公教育思想がなぜ登場したかを学びます。	シャトルシートへのコメントと本時の内容とをつなげて考える。 4時間
第6回	近代教育へ影響を与えた思想家たち その1 (ロック・ルソー) 近代教育へ影響を与えた思想家の思想を学びます。(ロック・ルソーなど)	シャトルシートへのコメントと本時の内容とをつなげて考える。 4時間

第7回	近代教育へ影響を与えた思想家たち その2 (ペスタロッチ) 近代教育へ影響を与えた思想家の思想を学びます。(ペスタロッチなど)	シャトルシートへのコメントと本時の内容とをつなげて考える。	4時間
第8回	教育の大衆化 教育の大衆化の原因を学びます。	シャトルシートへのコメントと本時の内容とをつなげて考える。	4時間
第9回	教育と価値の問題 教育が近代以降どのようなものにとらえられるようになったかを学びます。	シャトルシートへのコメントと本時の内容とをつなげて考える。	4時間
第10回	新教育運動 新教育運動とは何かを学びます。	シャトルシートへのコメントと本時の内容とをつなげて考える。	4時間
第11回	日本教育史 日本の古代までの教育史を学びます。	シャトルシートへのコメントと本時の内容とをつなげて考える。	4時間
第12回	近代公教育制度の確立 日本における公教育制度の確立過程を学びます。	シャトルシートへのコメントと本時の内容とをつなげて考える。	4時間
第13回	大正自由教育 大正自由教育の意義を学びます。	シャトルシートへのコメントと本時の内容とをつなげて考える。	4時間
第14回	第二次世界大戦と教育 第二次世界大戦が日本の教育に与えた影響を学びます。	シャトルシートへのコメントと本時の内容とをつなげて考える。	4時間
第15回	戦後教育の発展 戦後教育とはどういうものかを学びます。	シャトルシートへのコメントと本時の内容とをつなげて考える。	4時間

授業科目名	教育社会学				
担当教員名	鈴木勇・芝野淳一				
学年・コース等	2年	開講時期	前期	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目	該当しない				
実務経験の概要					

授業概要

本科目はまず、人間形成の役割を担う教育の在り方について、教育社会学の理論や知見をもとに理解することを目的としている。教育に関する「常識」や「思い込み」を問い直し、教育と社会の在り方について多角的に見つめ直すことをめざす。具体的には、初めに教育社会学の基本的な考え方や主要テーマについて学んだ後、不平等、社会的包摂、国際化といった教育についての現代的課題を検討し、教育者としての幅広い視野と知識を身に付けることをめざす。

養うべき力と到達目標

確かな専門性

- DP2. 専門的知識・技能、職業理解

具体的内容：

教育の社会学に関する知識

目標：

学んだ知識を用いながら社会的な視点から教育について改めてとらえなおすことができる。

汎用的な力

- DP8. 意思疎通

相手の意見をよく聞いた上で他者の感情に配慮しつつその問題点を指摘し、自己の意見の正当性を筋道を立てて相手に分かりやすく説明することができる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・ 振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)

課題や取組に対する評価・振り返り

- ・ 提出物にコメント・評価をつけて返却します
- ・ 提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

原則3分の2以上出席した場合のみ成績評価の対象とする。

成績評価の方法・評価の割合

評価の基準

シャトルシート

： 授業内容を的確にまとめ理解できているか」という観点から評価する。
30%

テスト

： 授業で扱った教育社会学にかかわる教育テーマについて正しく理解し、自らの見解を説得的に示す事ができているかを評価する。
70%

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

『中学校学習指導要領』／文部科学省
『中学校学習指導要領解説』／文部科学省
『教育社会学への招待』／若槻健・西田芳正編／大阪大学出版／2010年

履修上の注意・備考・メッセージ

「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。また、適宜映像資料も用意する。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間：

場所：

備考・注意事項： 鈴木：金曜昼休み 中央館5F鈴木研究室
芝野：火曜5限目 中央館5F芝野研究室

授業計画

授業計画		授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	教育社会学の基礎：歴史と理論（担当：鈴木勇） 教育社会学とはどのような特徴を持つ学問領域なのか。また、どのように発展してきたのか。これらのことから教育社会学を学ぶ意義について考えます。	講義の内容を復習し、教育社会学研究の現状と課題について理解を深める。 4時間
第2回	教育社会学の基礎（2）：現状と課題（担当：芝野淳一） 教育社会学という学問領域について、現在の教育社会学研究のトレンドと課題を中心に学習し、教育社会学を学習するために必要な基礎知識の習得を目指します。 キーワードは、グローバル化、個人化、多様性、実践性。	講義の内容を配布資料及び映像資料を用いて復習し、教育社会学研究の現状と課題について理解を深める。 4時間
第3回	近代の教育行政と学校制度（担当：鈴木勇） 近代に入ると国が学校を作り、国民は学校に行くことになった。国が学校制度を整備したのはなぜなのか。また、その結果、日本の教育はどのように変わったのか。こうしたことについて考えます。	講義の内容を復習し、教育社会学研究の現状と課題について理解を深める。 4時間
第4回	教育と家族（担当：芝野淳一）	講義の内容を配布資料及び映像資料を用いて復習し、教育と家族の関係性について理解を深める。 4時間

	教育社会学において議論されてきた「教育」と「家族」の関係性について学習します。理論的変遷を踏まえつつ、現代社会における家族と教育の問題について考察していきます。キーワードは、社会階層、教育戦略、格差		
第5回	学校と地域（担当：鈴木勇） 子どもの成長には、学校のみならず地域の影響も大きい。特に近年では学校と地域が協力して子どもの教育にあたることが重要視されている。そのための取り組みや課題について考えます。	講義の内容を復習し、教育社会学研究の現状と課題について理解を深める。	4時間
第6回	教員集団と学校（担当：芝野淳一） 教育社会学において議論されてきた「教員（集団）」と「学校」の関係性について学習します。理論的変遷を踏まえつつ、現代社会における学校教育の諸課題について考察していきます。キーワードは、教師の資質・力量、教員集団、学校づくり。	講義の内容を配布資料及び映像資料を用いて復習し、学校における教員集団の役割について理解を深める。	4時間
第7回	教育における選抜と排除（担当：鈴木勇） 様々な理由により教育から排除される子どもたちが増加している。そして、教育から排除されることで社会的に不利な状況に陥ることが多い。その現状と課題について考えます。	講義の内容を復習し、教育社会学研究の現状と課題について理解を深める。	4時間
第8回	教育と格差（担当：鈴木勇） 近年、世界的に社会の格差が広がっており日本も例外ではない。そしてその格差は教育における格差や不平等を生むこととなる。教育の格差や不平等の現状とそれらがいかんにして再生産されるのかについて考えます。	講義の内容を復習し、教育社会学研究の現状と課題について理解を深める。	4時間
第9回	教育と進路（担当：芝野淳一） 教育社会学において議論されてきた「教育」と「進路」の関係性について学習します。理論的変遷を踏まえつつ、現代社会における子ども・若者の進路選択やキャリア形成の問題について考察していきます。キーワードは、学校から職業への移行、進学格差、国境を超える進路・キャリア形成	講義の内容を配布資料及び映像資料を用いて復習し、生徒の進路と学校教育の関係性について理解を深める。	4時間
第10回	社会的包摂と教育（担当：鈴木勇） 支援が必要な子どもたちに等しく教育の機会を与えようとするインクルーシブ教育の考え方や取り組みが広がっている。主に日本のインクルーシブ教育の歴史と課題について考えます。	講義の内容を復習し、教育社会学研究の現状と課題について理解を深める。	4時間
第11回	教育とジェンダー（担当：芝野淳一） 学校教育におけるジェンダー問題について学び、男女格差やセクシャル・マイノリティといった事象について深く考えます。キーワードは、隠れたカリキュラム、バックラッシュ、セクシャル・マイノリティ。	講義の内容を配布資料及び映像資料を用いて復習し、学校教育におけるジェンダーの問題について理解を深める。	4時間
第12回	グローバル化と教育（1）：外国人児童生徒編（担当：芝野淳一） 日本における外国人児童生徒の教育問題について、言語、学力・進学、文化葛藤、アイデンティティといった課題を取り上げつつ、グローバル化時代における学校教育のあり方を探ります。キーワードは、ニューカマー外国人、エスニシティ、教育支援。	講義の内容を配布資料及び映像資料を用いて復習し、日本における外国人児童生徒の教育問題について理解を深める。	4時間
第13回	グローバル化と教育（2）：海外・帰国子女編（担当：芝野淳一） 日本から海外に移住する／海外から日本に帰国する子どもが直面する教育問題について、言語、学力・進学、文化葛藤、アイデンティティといった課題を取り上げつつ、グローバル化時代における在外教育施設や学校教育のあり方を探ります。キーワードは、移住の多様化、在外教育施設、トランスナショナルリズム。	講義の内容を配布資料及び映像資料を用いて復習し、海外・帰国子女の教育問題について理解を深める。	4時間
第14回	市民社会と教育（担当：鈴木勇） グローバリゼーションと新自由主義化は今日の教育における主要なトレンドであるが、両者が方向を間違えると格差の拡大や民族主義を生み出す危険性がある。市民性教育がこれらに対抗しうるのかについて考えます。	講義の内容を復習し、教育社会学研究の現状と課題について理解を深める。	4時間
第15回	教育政策の国際比較（担当：鈴木勇） 世界の主要な国々の教育施策の動きと比較しながら日本の教育を検討する。そうすることで日本の教育の特徴と課題について考えます。	講義の内容を復習し、教育社会学研究の現状と課題について理解を深める。	4時間

授業科目名	美術科指導法 I				
担当教員名	石井理之				
学年・コース等	前期2年・後期1年	開講時期	前期・後期	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	公立中学校美術科教諭、教頭、校長及び教育委員会事務局で指導主事として勤務				

授業概要

美術教育は、学校のみならず美術館などの文化施設や個人の絵画教室等幅広く実施されているものです。本科目では、このような様々な機会で開催されている美術教育のなかでも、学校教育で行われている美術科教育を取り上げ、「美術科教育の教科性」、「子どもの発達と造形表現の関係」、「美術教育史」、「指導要領」等について学びます。また、教育全体と美術教育の関係性についても検討します。

授業内発表では、情報機器を用いパワーポイント等を使用したプレゼンテーションを行います。

養うべき力と到達目標

確かな専門性

- DP2. 専門的知識・技能、職業理解

具体的内容：

美術教育に関する知識

目標：

日本の美術教育史、心身の発達と造形表現の関係等を学び、美術科教育についての基礎的知識を習得することができる。

汎用的な力

- DP4. 課題発見

現代の教育における諸課題を踏まえ、美術科教育が担う役割について考察することができる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
- ・問答法・コメントを求める
- ・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)
- ・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
- ・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)
- ・ディベート、討論

課題や取組に対する評価・振り返り

- ・実習や実技に対して個別にコメントします
- ・実技・実習後、全体に向けてコメントします
- ・提出物にコメント・評価をつけて返却します
- ・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を「不可」とします。各評価項目ごとの到達状況を、評価基準に沿ってどのレベルまで到達しているか測り以下の4段階で評価します。
S：設定した目標以上の到達状況である
A：十分満足できる
B：概ね満足できる
C：設定した目標に達しない

成績評価の方法・評価の割合

評価の基準

受講状況、授業への参加度	30%	： 授業への積極的な参加及び、授業内容に関して内容を理解し的確に回答することができる。
授業内発表やディスカッション	20%	： 各自が収集した美術・教育に関する記事やニュースなどから、関心ある事項を取り上げ問題を提示すると同時に、他者の発表に関して積極的に発言し議論することができる。
資料収集	20%	： 授業内容を理解し、それに適した内容の資料を整理した授業ファイルを完成させることができる。
試験（レポート提出）	30%	： 現代の教育における諸課題を踏まえ、美術科教育が担う役割について考察しレポートを作成することができる。

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

以下の参考文献の他授業中にも適宜紹介します。
『美術科教育の基礎知識』編著 福田隆真、福本謹一、茂木一司 建帛社
『美術による人間形成』 V. ローエンフェルド著/竹内清・堀内敏・武井勝共訳 黎明書房
『造形芸術の基礎』ヨハネス・イッテン著/手塚又四郎訳 美術出版社
『中学校学習指導要領解説 美術編』文部科学省
『高等学校学習指導要領解説 芸術(音楽 美術 工芸 書道)編』文部科学省

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 金曜日3時間目
場所： 南館研究室

授業計画

第1回

美術科教育について 授業の目的、授業計画、内容紹介 授業評価について

各人が教師をめざす理由、理想とする教師像、美術科教育が担う役割等について小レポートにまとめる。

授業外学修課題にかかる目安の時間

3時間

	美術科教育の導入として、教育の定義を示すとともに、各学生がめざす教育観について検討する。 また、今後の授業で使用する「授業ノート」の作成について、文献や新聞等を活用した資料収集の方法等具体的な説明を行う。本科目の授業計画・内容、授業評価の方法、評価基準について説明する。		
第2回	美術科教育の教科性 「美術の教育」と「美術教育」の違いを理解するとともに、「美術科教育」の特性について学ぶ。	授業の振り返りと個人ノートの作成・まとめ及び教育関連の資料収集	3時間
第3回	心身の発達と造形表現の発達段階 ① 幼児期 「発達とは」「発達段階とは」を把握し、人間の心身の発達と主に描画方法の発達を追い、各学ぶ年齢に応じた教育のあり方を探る。『描画期』から『命名的表現』の特徴を学ぶ。	授業の振り返りと「授業ノート」の作成・まとめ「幼児期の特徴について」他、教育関連の資料収集	4時間
第4回	心身の発達と造形表現の発達段階 ② 児童期Ⅰ 児童期前半の発達と描画表現の特徴「前図式表現」「図式的表現」を学ぶ。	授業の振り返りと「授業ノート」の作成・まとめ「児童期の特徴について」他、教育関連の資料収集	4時間
第5回	心身の発達と造形表現の発達段階 ③ 児童期Ⅱ 児童期後半の発達と描画表現の特徴「前写実的表現」「擬似写実的表現」を学ぶ。	授業の振り返りと「授業ノート」の作成・まとめ「児童期から青年期への変化について」他、教育関連の資料収集	4時間
第6回	心身の発達と造形表現の発達段階 ④ 青年期 「決定の時期である青年期の発達と描画表現の特徴」「写実的表現」「芸術的表現」を学ぶ。	授業の振り返りと「授業ノート」の作成・まとめ「青年期の特徴について」他、教育関連の資料収集	4時間
第7回	日本の美術科教育の歴史 ① 幕末から明治時代 日本における美術教育、美術科教育の歴史を幕末から平成まで順を追って概観する。また、日本の美術教育に大きな影響を与えた海外の美術教育も含めて学ぶ。 ①では、幕末から明治期にかけて「鉛筆画時代」「毛筆画時代」「教育的図画時代」について学ぶ。	授業の振り返りと「授業ノート」の作成・まとめ「幕末から明治にいたる日本の歴史的背景について」他、教育関連の資料収集	4時間
第8回	日本の美術科教育の歴史 ② 大正時代から昭和初期時代 「自由画時代」「脱自由画・構成教育時代」の美術教育を学ぶ。	授業の振り返りと「授業ノート」の作成・まとめ「バウハウスの教育について」他、教育関連の資料収集	5時間
第9回	日本の美術科教育の歴史 ③ 昭和10年代から20年代中期 『戦時下図画・工作時代』『占領下生活主義・実用主義美術教育時代』について学ぶ。	授業の振り返りと「授業ノート」の作成・まとめ「第二次世界大戦前後の時代的背景、占領下における教育について」他、教育関連の資料収集	5時間
第10回	日本の美術科教育の歴史 ④ 昭和20年代後期から40年代 「創造・認識・造形主義時代」「系統的造形主義美術教育時代」について学ぶ。	授業の振り返りと「授業ノート」の作成・まとめ、「昭和20年代から40年代の美術教育について」他、教育関連の資料収集	4時間
第11回	日本の美術科教育の歴史 ⑤ 昭和50年代から平成にかけて 「感性主義美術教育時代」「ゆとり教育」について学ぶ。	授業の振り返りと「授業ノート」の作成・まとめ、「ゆとり教育の影響について」他、教育関連の資料収集	4時間
第12回	学習指導要領の変遷 ① 昭和20年代から40年代 小学校「図画工作」、中学校・高等学校「美術」の学習指導要領の変遷を追い、その特徴や教育目標、内容について学ぶ。	授業の振り返りと「授業ノート」の作成・まとめ、教育関連の資料収集	4時間
第13回	学習指導要領の変遷 ② 昭和50年代から平成20年代 小学校「図画工作」、中学校・高等学校「美術」の学習指導要領の変遷を追い、その特徴や教育目標、内容について学ぶ。	授業の振り返りと「授業ノート」の作成・まとめ、教育関連の資料収集	4時間
第14回	これからの教育について考える これまでのノートの内容や「授業ノート」、収集した教育関連資料を踏まえて各人が問題提議を行い、課題、問題点を考える。	授業内容を振り返り、現代における教育の課題、問題を踏まえて個人の考えをまとめる。	5時間
第15回	まとめ 美術教育について考える 前回の授業内容を踏まえ、現代が抱える教育上の諸問題に対して、美術科教育が担う役割は何か考える。 終了後一週間以内にレポート提出(期末試験として評価する)	「授業ノート」のまとめとレポート作成	5時間

授業科目名	美術科教育法Ⅱ				
担当教員名	石井理之				
学年・コース等	3年	開講時期	前期	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	公立中学校美術科教諭、教頭、校長及び教育委員会事務局で指導主事として勤務				

授業概要

本科目では、中学校・高等学校美術科授業を実施するための基本的事項を学ぶことを主な目的とします。また、中学校・高等学校芸術科(美術)の学習指導要領を精読することにより、教科の目標を理解するとともに、達成するための具体的な方法について検討します。さらに、後期開講の美術科教育法Ⅲ・Ⅳと連動し、当該授業において作成予定の授業プランについても予備的に考察し、スムーズに授業プランを作成することができるような基本的な知識を獲得することを目的としています。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1．DP1.幅広い教養やスキル	美術科の教育方法についての知識	中学校・高等学校美術科教育の変遷を踏まえ、その成果と問題点を読み解くことができる
2．DP2.専門的知識・技能、職業理解	中学校・高等学校美術科学習指導要領の内容を理解する	内容を知るとともに、その背景・必然性についても理解することができる
汎用的な力		
1．DP4.課題発見		中学校・高等学校美術科教育の課題について検討し、改善策を提案することができる
2．DP5.計画・立案力		授業プラン作成のために、計画的に取り組むことができる

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
- ・問答法・コメントを求める
- ・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)
- ・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
- ・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)
- ・ディベート、討論

課題や取組に対する評価・振り返り

- ・実習や実技に対して個別にコメントします
- ・実技・実習後、全体に向けてコメントします
- ・提出物にコメント・評価をつけて返却します
- ・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を「不可」とします。各評価項目ごとの到達状況を、評価基準に沿ってどのレベルまで到達しているか測り以下の4段階で評価します。
S：設定した目標以上の到達状況である
A：十分満足できる
B：概ね満足できる
C：設定した目標に達しない

成績評価の方法・評価の割合

評価の基準

受講状況、授業への参加度	30%	： 授業への積極的な参加及び、授業内容に関して内容を理解し的確に回答することができる。
プレゼンテーション	30%	： 講義内容と授業で扱うテキストや文献資料を理解し、独自の視点で分析し表現することができる。
授業づくりのためのアイデア	20%	： 創造的な視点で授業づくりのアイデアを考えることができる
試験（レポート提出）	20%	： レポート内容に妥当性があり、論理的に構成力ができる。

使用教科書

指定する

著者	タイトル	出版社	出版年
京都市立芸術大学美術教育研究会 編集	美術資料 大阪府版	・ 修学社	・ 2019年

参考文献等

以下の参考文献の他授業中にも適宜紹介します。
『美術科教育の基礎知識』編著 福田隆真、福本謹一、茂木一司 建帛社
『中学校学習指導要領解説 美術編』 文部科学省
『高等学校学習指導要領解説 芸術(音楽 美術 工芸 書道)編』 文部科学省

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間：	金曜日3時間目
場所：	南館研究室

授業計画

⋮

⋮ 授業外学修課題に
かかる目安の時間

第1回	<p>美術教育について、美術教師の仕事の面白さについて</p> <p>美術教育の意義や役割を美術教師という仕事の面白さという観点から考える。受講生の今までの美的経験や、現代社会、今日のアートシーンなどの幅広い視野を持って、討議を通じて考えます。</p>	復習：美術教育の意義について自分の意見をまとめる。	4時間
第2回	<p>美術教育の現代—その課題と状況</p> <p>現代日本の美術教育の課題を考える。そのために時代認識と、今日のアートの状況を把握し、美術教育の課題を討議を交えて主体的に探ります。</p>	復習：美術教育の課題についてまとめる。	4時間
第3回	<p>西洋と日本の出会いが生む美術教育—鉛筆画と毛筆</p> <p>幕末から明治初期の教育制度形成期における美術と教育の姿は、グローバル社会のなかで進むべき道を模索する現代日本の課題と大きく重なります。「西洋画」がどのような形で美術教育の制度に組み込まれたかを理解することは、近代日本の文化の本質を理解することにつながります。</p>	予習：テキスト当該箇所を精読し理解。復習：西洋画と日本の文化についてレポートを書く。	4時間
第4回	<p>岡倉天心の射程—グローバリズムと茶の湯</p> <p>岡倉天心が構想した「日本美術」と「美術教育」は、現代のグローバリズムのなかで美術・教育を考えるために大きな示唆を与える。西洋と東洋との差異を超える普遍的な美術・教育のビジョンについて検討します。</p>	予習：岡倉天心とその活動について調べる。	4時間
第5回	<p>『新定画帖』と大正自由画運動</p> <p>明治末期に『新定画帖』（教科書）は「教育的美術」という系統的な美術教育のビジョンを示す。しかしそれは大正自由画運動という近代的で大衆的な教育運動によって、大きな意味を持ち得なかった。その歴史的経緯から、「美術教育の近代」を探ります。</p>	予習：テキスト当該箇所を精読し理解する。復習：大正時代の美術教育運動の成果と問題点についてまとめる。	4時間
第6回	<p>大正自由画運動の展開とそれをめぐる論議</p> <p>日本における最初の近代的な美術教育運動である大正自由画運動は大きな大衆的支持を得た。しかし多くの論議を呼び、賛否の論が出された。それらを通じて、現代の美術教育の基本的な理念と方法を検証します。</p>	予習：テキスト当該箇所を精読し理解する。復習：大正時代の美術教育運動が現代に与える示唆についてレポートを書く。	4時間
第7回	<p>工作・工芸・デザイン教育の近代</p> <p>明治以降、戦前まで工作はそのほとんどを「手工」という教科名で行われた。「手工」教育の歴史を追うことで、工業国家が求めた「手」の教育の姿を理解する。それは西欧における19世紀末の美術工芸運動やバウハウスなどでのデザイン運動での教育の姿と比較することで、より明瞭となることを理解します。</p>	予習：テキスト当該箇所を精読し理解する。復習：デザイン教育の黎明期に起こった運動についてまとめる。	4時間
第8回	<p>戦後美術教育の展開と昭和22-26年学習指導要領期の美術教育</p> <p>戦後美術教育の展開を概観した上で、戦後直後に法的拘束性を持たない「試案」として出された学習指導要領の内容を理解します。戦後リベラリズムと生活単元学習の受容のなかでの美術教育は、現在の規制緩和路線とどのように似て、どのように異なるのかを理解します。</p>	予習：テキスト当該箇所を精読し理解する。復習：学習指導要領の意味について考える。	4時間
第9回	<p>昭和33-44年学習指導要領と民間美術教育運動</p> <p>米国における「教育の現代化」政策の影響下で「系統化」を進めた昭和33-44年学習指導要領。その意味波動時代に実質的に美術教育を推進した民間美術教育運動の3潮流のなかで考える必要があります。近代美術教育の制度と理念をめぐってその姿を探ります。</p>	予習：テキスト当該箇所を精読し理解する。復習：学習指導要領の変遷についてまとめる。	4時間
第10回	<p>昭和52年—平成元年学習指導要領とポスト近代社会</p> <p>高度成長期の終焉と共に「ゆとり」教育へと振れはじめる学習指導要領。その背景としてのポスト近代社会とそれが要請する美術教育のビジョンを、アメリカと日本を比較しつつ考えます。他方、1970年後半以降のアートの変容も視野に入れて学びます。</p>	予習：テキスト当該箇所を精読し理解する。復習：学習指導要領の変遷についてまとめる。	4時間
第11回	<p>平成10-22年学習指導要領と新しい学力・能力観</p> <p>1990年代以降に顕在化する新自由主義的政策のなかで、美術教育はどのように対応すべきなのか。ポスト近代における教育と美術、そして文化の大きな変動を背景として「学校美術教育」の今後を考えます。</p>	予習：テキスト当該箇所を精読し理解する。復習：学習指導要領の変遷についてまとめる。	4時間
第12回	<p>現行学習指導要領の課題と展望</p> <p>以下の諸点から現行の学習指導要領の問題点と課題について考えます。 ①共通事項、②鑑賞教育、③小中連携</p>	予習：テキスト当該箇所を精読し理解する。復習：現行学習指導要領の目的と内容についてプリントにまとめる。	4時間
第13回	<p>明日の美術教育を構想する（1）—美術教育の学力論と現代アート論から</p> <p>1990年代以降に現れた新しい学力観と能力観を批判的に理解し、美術教育の進むべき道を探ります。同時に美術教育のカリキュラムモデルを示しながら、その具体的な検討を行います。</p>	予習：テキスト当該箇所を精読し理解する。復習：現代の美術教育の問題点についてまとめる。	4時間
第14回	<p>明日の美術教育を構想する（2）—学生からの提言（構想）</p> <p>今までの授業内容を踏まえ、「明日の美術教育を切り開く授業プラン」について小グループで構想します。</p>	予習：授業づくりのアイデアを考える。復習：授業で構想したプランを基に具体的なプランを考える。	4時間
第15回	<p>明日の美術教育を構想する（2）—学生からの提言（発表）+まとめ</p> <p>「明日の美術教育を切り開く授業プラン」について小グループで構想したものを発表し、受講生全体で共有します。終了後一週間以内にレポート提出(期末試験として評価する)</p>	発表された授業プランを基に、さらに具体的な授業計画を構想する。	4時間

授業科目名	美術科教育法Ⅲ				
担当教員名	石井理之				
学年・コース等	3年	開講時期	後期	単位数	2
授業形態	講義と研究発表が中心となります。学生各自が美術の授業で何を教えたいのかを熟考し、題材開発を行い、学習指導案を作成し、それを皆で検証しながら授業を進めて行きます。また学習指導要領の読解では様々な専門				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	公立中学校美術科教諭、教頭、校長及び教育委員会事務局で指導主事として勤務				

授業概要

本授業では来るべき4年生での教育実習に向けての準備として、中学校・高等学校において美術の授業を行うために必要な知識と技術を学びます。主に学習指導案の重要性について理解を深め、生徒たちが置かれた状況に即した題材開発と学習指導案の作成について詳細にシミュレーションを行います。さらに中学校・高等学校美術科学学習指導要領を精読することを通じて、学校教育で求められている教師の役割について理解し、学生の自覚を促します。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1．DP2. 専門的知識・技能、職業理解	学習指導案の書き方	題材設定とその理由、指導目標、評価基準について、正しく書くことができる。
2．DP3. 専門的知識・技能を実践で発揮する力	学習指導要領の読解力	学習指導要領に書かれてある教科の目的および内容、指導計画等を理解できる。
汎用的な力		
1．DP5. 計画・立案力		授業の題材を考え、指導案を作成する力を養成する。
2．DP6. 行動・実践		自分の考えをわかりやすく発表し、授業を受ける者が理解しやすい指導案を書く力を養う。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
- ・実験、実技、実習
- ・問答法・コメントを求める
- ・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)
- ・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
- ・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)
- ・ディベート、討論

課題や取組に対する評価・振り返り

- ・実習や実技に対して個別にコメントします
- ・実技・実習後、全体に向けてコメントします
- ・提出物にコメント・評価をつけて返却します
- ・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を「不可」とします。
各評価項目ごとの到達状況を、評価基準に沿ってどのレベルまで到達しているか測り以下の4段階で評価します。
S：設定した目標以上の到達状況である
A：十分満足できる
B：概ね満足できる
C：設定した目標に達しない

成績評価の方法・評価の割合

評価の基準

学習指導案の作成	40%	： 学習指導案を2案作成し、その各項目が教育実習の現場で実情に沿ったものであるかどうかを基準に評価します。
試験（学習指導要領の理解）	40%	： 学習指導要領の全文を熟読して理解できているかどうか、レポートによって評価します。
プレゼンテーション	20%	： 教育実習の準備として、わかりやすい説明ができるかどうかを短いスピーチによって評価します。

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

以下の参考文献の他授業中にも適宜紹介します。
『美術科教育の基礎知識』編著 福田隆真、福本謹一、茂木一司 建帛社
『中学校学習指導要領解説 美術編』 文部科学省
『高等学校学習指導要領解説 芸術(音楽 美術 工芸 書道)編』 文部科学省

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 金曜日3時間目
場所： 南館研究室
備考・注意事項：

授業計画

第1回	授業の目的、授業計画、内容紹介、授業評価について 教育実習に向けての実践的準備を中心に、授業形式と授業内容の紹介をします。	予習：教職カルテの準備。復習：授業全体の計画を確認して準備。	授業外学修課題にかかる目安の時間 4時間
-----	---	--------------------------------	--------------------------------

第2回	教職カルテの記入について 今までの履修状況の確認をします。教職課程の単位履修漏れを防ぐとともに、これから始まる各種の実習に臨む準備をします。	復習：教職カルテの記入。	4時間
第3回	題材開発演習①—題材開発とは— 美術科の授業における題材開発の重要性について学びます。	予習：授業の題材についてアイデアを考える。復習：題材開発の要点を踏まえて自分なりの題材を考える。	4時間
第4回	題材開発演習②—良い題材とは— 美術科の題材に求められるものとは何かを、具体的に例を挙げながら解説します。	復習：独自に考えた題材が学校での美術の授業に適しているか、再検証。	4時間
第5回	題材開発演習③—題材の検証— 実際に題材開発を行って、グループで話し合いながらその長所や問題点を明らかにします。	復習：話し合いを踏まえて、題材の再検証を行う。	4時間
第6回	学習指導案の作成①—概説— 学習指導案についての基礎知識および書き方の通例について学習します。	予習：学習指導案の一般的な書式について学ぶ。復習：授業で学んだことを踏まえて学習指導案の原稿を作成。	4時間
第7回	学習指導案の作成②—題材観— 作成した学習指導案の中で、主に「題材観」「題材設定の理由」「題材について」の項目について検証します。	復習：授業での検証を基に、指導案の各項目を修正する。	4時間
第8回	学習指導案の作成③—指導目標と評価基準— 指導目標の立て方と、それが達成されたかどうかを判断する評価基準の違いについて検証します。	復習：指導目標と評価基準の違いを理解し、当該箇所を修正を行う。	4時間
第9回	学習指導案の作成④—指導計画— 指導計画の立て方と、本時の計画（細案）について検証します。	復習：無理なく適切に題材を指導できるかどうか、授業で学んだことを踏まえて再検証を行う。	4時間
第10回	学習指導要領①—目的— 教科の目的について、学習指導要領に書かれてある理念と照らし合わせながら解説します。	予習：学習指導要領の当該箇所を精読する。復習：小テストを振り返って修正しながらさらに理解を深める。	4時間
第11回	学習指導要領②—内容— 教科の内容について解説します。	予習：学習指導要領の当該箇所を精読する。復習：小テストを振り返って修正しながらさらに理解を深める。	4時間
第12回	学習指導要領③—指導計画— 教科の指導計画について解説します。	予習：学習指導要領の当該箇所を精読する。復習：小テストを振り返って修正しながらさらに理解を深める。	4時間
第13回	学習指導要領④—共通事項— 新しく学習指導要領の内容に導入された共通事項について解説します。	予習：学習指導要領の当該箇所を精読する。復習：小テストを振り返って修正しながらさらに理解を深める。	4時間
第14回	教職カルテのまとめ 教職カルテを再度チェックし、記入漏れや内容の不備などを修正します。	教職カルテの記入	4時間
第15回	まとめ 本授業の内容を踏まえて、美術教育に求められている教師像を新たにイメージし、来るべき教育実習や採用試験に向けた準備を行います。 終了後一週間以内にレポート提出(期末試験として評価する)	スピーチの結果を基に、自分に足りない課題を再認識し、実習に備える。	4時間

授業科目名	美術科教育法Ⅳ			
担当教員名	石井理之			
学年・コース等	3年	開講時期	後期	単位数 2
授業形態	指導案作成と模擬授業発表・その検証が中心となります。授業立案の課題収集と分析を通じて、自分自身の考えをまとめること、授業を的確に指導することができるように検証、解説をおこないます。			
実務経験のある教員による授業科目	該当する			
実務経験の概要	公立中学校美術科教諭、教頭、校長及び教育委員会事務局で指導主事として勤務			

授業概要

本科目では、中学校・高等学校美術科における各領域の学習指導内容を検討し、目標の設定、指導上の留意点、評価について考察・検証し、学習指導案を作成します。また、作成した指導案に基づき受講者全員が模擬授業を行い、その後の討議により多角的に検証を行い、4年生時の教育実習において授業が行える力を身に付けることを目標とします。さらに、授業体験を通して美術科授業で配慮すべきことや、指導のポイントを学び、教科指導において必要な指導力の習得をめざします。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1．DP3. 専門的知識・技能を実践で発揮する力	目標にかなった適切な授業の提案ができる。	討議を通して、授業案を作成し、適切な模擬授業の提案ができる。
汎用的な力		
1．DP5. 計画・立案力		目標にかなった指導案を作成し、適切な授業の提案ができる。
2．DP6. 行動・実践		討議を通じた意見収集から、模擬授業の問題点の検討ができ改善することができる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
- ・実験、実技、実習
- ・問答法・コメントを求める
- ・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)
- ・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
- ・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)
- ・ディベート、討論

課題や取組に対する評価・振り返り

- ・実習や実技に対して個別にコメントします
- ・実技・実習後、全体に向けてコメントします
- ・提出物にコメント・評価をつけて返却します
- ・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を「不可」とします。各評価項目ごとの到達状況を、評価基準に沿ってどのレベルまで到達しているか測り以下の4段階で評価します。
 S：設定した目標以上の到達状況である
 A：十分満足できる
 B：概ね満足できる
 C：設定した目標に達しない

成績評価の方法・評価の割合

評価の基準

授業指導	30%	：自ら学ぼうとする意欲を評価する。目標にかなった指導ができたかを評価する。
模擬授業の提案、討議の様子	50%	：討議での意見収集から、模擬授業の問題点を検討し改善ができる。ディスカッション時には、自分の意見を述べるだけでなく、他者を尊重し真摯に取り組む姿勢を評価する。
試験（レポート）	20%	：模擬授業の結果を踏まえた授業プランの作成

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

以下の参考文献の他授業中にも適宜紹介します。
 『美術科教育の基礎知識』編著 福田隆真、福本謙一、茂木一司 建帛社
 『中学校学習指導要領解説 美術編』文部科学省
 『高等学校学習指導要領解説 芸術(音楽 美術 工芸 書道)編』文部科学省

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。
 「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 金曜日3時間目
 場所： 南館研究室

授業計画

第1回	授業の目的及び授業計画、内容紹介 授業評価について	授業計画と内容を確認し、授業の概要について確認する。	授業外学修課題にかかる目安の時間
	美術科授業の目的と意義及び本科目の授業計画・内容について解説します。授業評価の方法、評価基準について説明します。		4時間

第2回	美術科授業の学びの変遷について 美術科授業の学びの変遷について説明し、現行・新学習指導要領において改訂の要点を検討します。	授業内容をまとめ、美術科授業の学びの変遷、現行・新学習指導要領改訂の要点の理解を深める。	4時間
第3回	指導計画に基づいた授業概要の立案 指導計画に基づいた授業概要について事例をもとに検討します。	指導計画に基づいた授業指導案を立案する。	4時間
第4回	模擬授業計画の演習 模擬授業案作成と実施に向けての留意点について解説します。	自身の指導テーマを反映した模擬授業が実施できるように準備する。	4時間
第5回	模擬授業の実施と討議 ① 模擬授業演習 各発表の記録を振り返りシートにまとめ、グループで改善点について検討し、改善の方策について検討します。	模擬授業とグループ討議内容の整理を行い、課題を克服し適切な授業が実施できるようにする。	4時間
第6回	模擬授業の実施と討議と討議 ② 模擬授業演習 各発表の記録を振り返りシートにまとめ、グループで改善点について検討し、改善の方策について検討します。	模擬授業とグループ討議内容の整理を行い、課題を克服し適切な授業が実施できるようにする。	4時間
第7回	討議 意見収集 模擬授業演習 各発表の記録を振り返りシートにまとめ、グループで改善点について検討し、改善の方策について検討します。	模擬授業と討議内容の整理を行い、課題と成果を明確にする。	4時間
第8回	模擬授業の実施と討議 ③ 模擬授業演習 各発表の記録を振り返りシートにまとめ、グループで改善点について検討し、改善の方策について検討します。	模擬授業とグループ討議内容の整理を行い、課題を克服し適切な授業が実施できるようにする。	4時間
第9回	模擬授業演習の中間評価 模擬授業演習の中間評価を行います。	模擬授業演習の内容を検討し、課題と成果についてまとめる。	4時間
第10回	模擬授業の実施と討議 ④ 模擬授業演習 各発表の記録を振り返りシートにまとめ、グループで改善点について検討し、改善の方策について検討します。	各発表の記録を振り返りシートにまとめる。模擬授業シミュレーションとグループ討議内容の整理を行い、課題を克服し適切な授業が実施できるようにする。	4時間
第11回	模擬授業の実施と討議 ⑤ 模擬授業演習 各発表の記録を振り返りシートにまとめ、グループで改善点について検討し、改善の方策について検討します。	模擬授業とグループ討議内容の整理を行い、課題を克服し適切な授業が実施できるようにする。	4時間
第12回	授業の導入を考える 模擬授業演習において、授業導入に焦点を当てその要点について検討します。	授業導入における要点を整理しまとめる。	4時間
第13回	授業の展開を考える 模擬授業演習において、授業展開に焦点を当てその要点について検討します。	授業の展開の要点をまとめる	4時間
第14回	模擬授業のまとめ 授業演習、問題点の検討をします。 振り返りシートをまとめます。	授業展開における要点を整理しまとめる。	4時間
第15回	模擬授業のまとめ 模擬授業演習を通しての課題と成果を検討し、適切な授業ができるように振り返りシートをまとめます。 終了後一週間以内にレポート提出(期末試験として評価する)	模擬授業の整理、記録を行い実際の授業に生かすように考察する。	4時間

授業科目名	社会科・地理歴史科指導法 I				
担当教員名	出原真哉				
学年・コース等	3年	開講時期	前期	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目	該当しない				
実務経験の概要					

授業概要

社会科という教科の本質の理解に立って、理論的な問題を授業実践へと具体化する取り組みを行います。そのために、教材の作成・収集の実例やその活用について、歴史分野の原始・古代史を例として指導案を再現することを通して、指導技術（教材の提示、発問、声の大きさ等）を学びます。自ら教材を作成準備し、その教材を活かした指導案を作成して模擬授業を行います。各自が考えた指導案を相互評価することで、授業実践能力の向上をめざします。

養うべき力と到達目標

確かな専門性

- 1 . DP2. 専門的知識・技能、職業理解

具体的内容：

指導案作成とこれにもとづく模擬授業の実践

目標：

教材を作成・収集し、意欲的に教材研究に取り組めること。指導案（指導細案）を作成し、これをもとに模擬授業ができること。

汎用的な力

- 1 . DP5. 計画・立案力

自ら社会科学学習の魅力を語ることができ、意欲的に教材研究に取り組むことができるか。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・課題（演習、調査、レポート、ケースメソッドなど）
- ・実験、実技、実習
- ・問答法・コメントを求める
- ・振り返り（振り返りシート、シャトルシートなど）
- ・eラーニング、反転授業
- ・協同学習（ペアワーク、グループワークなど）
- ・発表（スピーチ、プレゼンテーションなど）
- ・課題解決学習（PBL）

課題や取組に対する評価・振り返り

- ・実習や実技に対して個別にコメントします
- ・実技・実習後、全体に向けてコメントします
- ・提出物にコメント・評価をつけて返却します
- ・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を「不可」とします。

成績評価の方法・評価の割合

評価の基準

各時間の小レポート 15回	40%	： 内容的に確に踏まえていれば2点、または3点、不足や誤りがあればその度合いに応じて1点、0点とし、2点（または3点）×15回の合計とする。
指導案の作成	30%	： 単元目標にそったものになっているか、教材研究は的確かまた準備の熱意が伝わるものであるか。内容的に誤りはないかなどにより総合評価する。
模擬授業	30%	： 声の大きさや教材などが適切か、指導案にそって行われているか、発言内容に誤りやあいまいな表現がないか、学習の深まりが期待できるものとなっているかなど、学生同士の相互評価も加味しつつ総合評価する。

使用教科書

指定する

著者	タイトル	出版社	出版年
出原真哉	資料で学ぶ歴史攻略ノート	山川出版社	・ 2012年
	新しい社会 歴史（中学校の教科書）	東京書籍	・ 2018年

参考文献等

講義中に紹介します。

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 最初の授業に連絡します

場所：

備考・注意事項：

授業計画

⋮

⋮ 授業外学修課題にか
かる目安の時間

第1回	<p>ガイダンス 「学習指導要領」概説</p> <p>講義内容をはじめ、課題や評価について概説します。どういった授業をつくることをめざすべきなのか考察します。</p>	<p>テキスト「はしがき 本書の特長 本書の利用のしかた」を読んで、意見や質問を用意して下さい。また、教科書「歴史の流れをとらえよう」をみて、年間指導計画の中のどのあたりで何を取り上げるか、1つ選んで発表する準備をしておいて下さい。</p>	4時間
第2回	<p>指導案（指導細案）の作成方法Ⅰ：授業を再現する</p> <p>歴史分野の原始・古代の中から1コマ、中学校における50分のごく一般的な授業を指導案を元にして再現します。ストップモーション方式で、主なところで授業を止めてねらいや予想される生徒の答えなどについて検討します。あわせて指導案の書き方について学びます。</p>	<p>教科書の第2章2節を読み、あわせてテキストのその範囲の所（1 人類の出現～9 隋・唐・宋・元）の空欄補充や右頁の作業をしておいて下さい。</p>	4時間
第3回	<p>指導案（指導細案）の作成方法Ⅱ：授業再現を通して指導案の書き方を学ぶ</p> <p>歴史分野の原始・古代の中からもう1コマ、中学校における少し特別な50分の授業を指導案を元にして再現します。ストップモーション方式で、主なところで授業を止めてねらいや予想される生徒の答えなどについて検討します。あわせて指導案の書き方について学びます。</p>	<p>教科書の第2章3節を読み、あわせてテキストのその範囲の所（10 飛鳥の政治～16 摂関政治）の空欄補充や右頁の作業をしておいて下さい。</p>	4時間
第4回	<p>教材の収集・作成と活用 1 実物教材の収集と活用について</p> <p>教材研究の究極の一例として、実物教材をとりあげます。実物に勝る説得力の大きいものはありません。どんな実物教材を準備できるか、またどう活用するかを具体的に解説します。</p>	<p>テキストの「1 人類の出現」～「16 摂関政治」の各右頁にはどのような実物教材が紹介されていますか。それは、どのような学習効果をねらったものだと考えられますか。いくつかについてあなたなりに考えておいて下さい。</p>	4時間
第5回	<p>教材の収集・作成と活用 2 模造紙教材の作成と活用について</p> <p>模造紙に書くことは、板書（黒板に書く）時間を節約するばかりではなく、考察（アクティブラーニング）を促す教材として活用できます。どんな模造紙教材を作れるか、またどう活用するかを具体的に解説します。</p>	<p>テキストの「1 人類の出現」～「16 摂関政治」の各右頁の資料を模造紙に書くとする、どんな発問を用意できますか、考えておいて下さい。レポート用紙に、模造紙のミニチュア版（縮小版・本物は黒板いっぱい）に作ります。教室中から見えるような大きさです）を作っておいてください。合わせてその作品を使った発問も考えておいて下さい。</p>	4時間
第6回	<p>教材の収集・作成と活用 3 地図教材の活用について</p> <p>地理分野と歴史分野は密接に関係します。ただ、歴史分野の地図には時間の流れが伴います。平面の地図をどのように活用したら時間の経過を学習できるでしょうか。地図単独の活用と他の教材と合わせて使う方法などを紹介します。</p>	<p>あなたならば、どのような地図を用意しますか。テキスト「1 人類の出現」～「16 摂関政治」の範囲で考え、手書きでいいので書いてみて下さい。合わせてこれを使った発問も考えておいて下さい。</p>	4時間
第7回	<p>教材の収集・作成と活用 4 視聴覚教材の作成と活用について</p> <p>視覚や聴覚に訴えかける教材は授業を活性化するものです。これに頼りすぎると冗長になり、かえって間延びしてしまいます。視聴覚教材というと写真や動画だけではなく音の教材も考えられます。なさそうである原始・古代の音とはどんな教材が考えられるか。さまざまな視聴覚教材を紹介します。</p>	<p>あなたならば、どのような視聴覚教材を用意できますか。テキスト「1 人類の出現」～「16 摂関政治」の範囲で考え、手書きでいいので紹介して下さい。合わせてこれを使った発問も考えておいて下さい。</p>	4時間
第8回	<p>教材の収集・作成と活用 5 ポスター・掲示物教材の活用について</p> <p>世の中には画像や動画があふれています。その中で、じっくり見せられるポスターや掲示物は、その存在を主張しようとしているかのように、見る者の目を引こうとします。これを教材化できないか。そもそもどこにあるか、またどのような視点で探せばよいのか、その活用方法についても解説します。</p>	<p>あなたならば、どのようなポスター・掲示物教材を用意できますか。テキスト「1 人類の出現」～「16 摂関政治」の範囲で考え、手書きでいいので紹介して下さい。合わせてこれを使った発問も考えておいて下さい。</p>	4時間
第9回	<p>教材の収集・作成と活用 6 他教科との連携 文学作品の教材化について</p> <p>国語科とのコラボレーション教材でもある文学作品を取り上げます。これを社会科の授業にしなければならぬ。興味関心を引くものをどう使うか。2冊の図書室にもある本から教材化を試みます。</p>	<p>教科書の奈良時代と平安時代に当たる第2章3節（ただし奈良時代からあと）と第3章1節（ただし平安時代の末まで）を読み、あわせてテキストのその範囲の所（14 平城京と平安京～20 平氏政権）の空欄補充や右頁の作業（20 平氏政権まで完成しておくこと）をしておいて下さい。そして文学作品として何をとりあげるか。もちろんその時代をテーマにしていれば近現代のものでもよい。あなたならば何をとり上げるか、考えておいて下さい。</p>	4時間
第10回	<p>指導案（指導細案）の作成Ⅰ：指導案を協議する</p> <p>平安時代を範囲（テキスト「16 摂関政治」「17 武士の台頭」「18 院政と荘園公領制」のうちから1つを選ぶ）としてどこか1つのテーマをとりあげ、指導案を作成します。その単元で教えるべきことは何か、学習指導要領や教科書、テキストから単元目標をふまえて、教材として何を用意するか考えます。同じテーマを選んだ人と組んで、意見交換し、まず指導案を完成します。</p>	<p>あらかじめ、その範囲に関係するところ（教科書、指導要領、テキスト）を読んで下調べをしておいて下さい。どういった教材を使うか、その目的は何かを考えておいて下さい。</p>	4時間
第11回	<p>指導案（指導細案）の作成Ⅱ：指導過程を考え、指導案を考える</p> <p>選んだテーマの指導案の細案を作成します。そして、50分授業を「導入」「展開1」「展開2」「展開3」「まとめ」と分けるとします。各5分～10分で考えるとすると、自分が担当する部分を選び、使用する教材と合わせてどう使うかを考えて、時間配分や教材の提示の仕方・活用方法を検証しつつ、指導案を完成させます。</p>	<p>指導案をもとに指導細案を作ります。あらかじめ指導案は完成して提出して下さい。</p>	4時間
第12回	<p>模擬授業と相互評価Ⅰ：グループAの模擬授業から学ぶ</p> <p>模擬授業を行い、お互いに事後評価を行います。まず、基本として声は教室の後ろまで届くものであったか、発問や説明は適切であったか、教材の提示の仕方はどうであったかなどを確認、評価します。</p>	<p>模擬授業の準備をしておくこと。後の時間でする者は前の授業者の反省点を活かせるはずなので、よりの確かな準備ができるはず。また、先に模擬授業をした者は、自分のことを踏まえて深く評価できるはず。心して取り組んでおくこと。</p>	4時間

第13回	模擬授業と相互評価Ⅱ：グループBの模擬授業から学ぶ	<p>模擬授業の準備をしておくこと。後の時間で する者は前の授業者の反省点を活かせるはず なので、よりの確な準備ができるはず。また、 先に模擬授業をした者は、自分のことを 踏まえて深く評価できるはず。心し て取り組んでおくこと。</p>	4時間
第14回	模擬授業と相互評価Ⅲ：グループCの模擬授業から学ぶ	<p>模擬授業の準備をしておくこと。後の時間で する者は前の授業者の反省点を活かせるはず なので、よりの確な準備ができるはず。また、 先に模擬授業をした者は、自分のことを 踏まえて深く評価できるはず。心し て取り組んでおくこと。</p>	4時間
第15回	模擬授業の修正案	<p>自分の担当した授業と、自分以外が担当し た授業について改善点を提案してもらいま す。準備しておいて下さい。</p>	4時間
<p>模擬授業を行い、お互いに事後評価を行います。まず、基本とし て声は教室の後ろまで届くものであったか、発問や説明は適切で あったか、教材の提示の仕方はどうであったかなどを確認、評 価します。</p>	<p>模擬授業を行い、お互いに事後評価を行います。まず、基本とし て声は教室の後ろまで届くものであったか、発問や説明は適切で あったか、教材の提示の仕方はどうであったかなどを確認、評 価します。</p>	<p>模擬授業の修正を試みます。私ならばこうするという意見を積極 的に述べて下さい。</p>	

授業科目名	社会科・地理歴史科指導法Ⅱ				
担当教員名	出原真哉				
学年・コース等	3年	開講時期	後期	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目	該当しない				
実務経験の概要					

授業概要

社会科・地理歴史科教育法Ⅰを受けて、社会科という教科の本質の理解に立って、理論的な問題を授業実践へと具体化する取り組みを行います。そのために、教材の作成・収集の実例やその活用について、歴史分野の近世史を例として指導案を再現することを通して、指導技術（教材の提示、発問、声の大きさ等）を学びます。自ら教材を作成準備し、その教材を活かした指導案を作成して模擬授業を行います。各自が考えた指導案を相互評価することで、授業実践能力の向上をめざします。

養うべき力と到達目標

確かな専門性

- DP3. 専門的知識・技能を実践で発揮する力

具体的内容：

模擬授業の実践と、常に指導技術の向上をめざす教育者であるか

目標：

教材を作成・収集し、意欲的に教材研究に取り組めること。指導案（指導細案）を作成し、これをもとに模擬授業ができること。

汎用的な力

- DP5. 計画・立案力

自ら社会科学学習の魅力を語ることができ、意欲的に教材研究に取り組むことができるか。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・課題（演習、調査、レポート、ケースメソッドなど）
- ・実験、実技、実習
- ・問答法・コメントを求める
- ・振り返り（振り返りシート、チャトルシートなど）
- ・eラーニング、反転授業
- ・協同学習（ペアワーク、グループワークなど）
- ・発表（スピーチ、プレゼンテーションなど）
- ・課題解決学習（PBL）

課題や取組に対する評価・振り返り

- ・実習や実技に対して個別にコメントします
- ・実技・実習後、全体に向けてコメントします
- ・提出物にコメント・評価をつけて返却します
- ・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を「不可」とします。

成績評価の方法・評価の割合

評価の基準

各時間的小レポート15回	40%	：内容を的確に踏まえていれば3点または2点、不足や誤りがあればその度合いに応じて1点、0点とし、3点または2点×15回の合計とする。
指導案の作成	30%	：単元目標にそったものになっているか、教材研究は的確かまた準備の熱意が伝わるものであるか。内容的に誤りはないかなどにより総合評価する。
模擬授業	30%	：声や教材の大きさなどが適切か、指導案にそって行われているか、発言内容に誤りやあいまいな表現がないか、学習の深まりが期待できるものとなっているかなど、学生同士の相互評価も加味しつつ総合評価する。

使用教科書

指定する

著者	タイトル	出版社	出版年
出原真哉	資料で学ぶ歴史攻略ノート	山川出版社	・ 2012年
	新しい社会 歴史（中学校の教科書）	東京書籍	・ 2018年

参考文献等

講義中に紹介します。

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 最初の授業で連絡します。

場所：

備考・注意事項：

授業計画

⋮

⋮ 授業外学修課題にか
かる目安の時間

第1回	ガイダンス 「学習指導要領」概説	テキスト「はしがき 本書の特長 本書の利用のしかた」を読んで、意見や質問を用意して下さい。また、教科書「歴史の流れをとらえよう」をみて、年間指導計画の中のどのあたりで何を取り上げるか、1つ選んで発表する準備をしておいて下さい。ただし前期で「社会科・地理歴史科指導法Ⅰ」を受講した者は、同じ項目を選ばないで、別のものを選択すること。	4時間
	講義内容ははじめ、課題や評価について概説します。どういった授業をつくることをめざすべきなのかを考察します。		
第2回	指導案（指導細案）の作成方法Ⅰ：授業を再現する	教科書の戦国時代から安土桃山時代にあたる部分、第4章1節を読み、あわせてテキストのその範囲の所（31 戦国地図のぬりかえ～38 桃山文化）の空欄補充や右頁の作業をしておいて下さい。	4時間
	歴史分野の近世・近代史の中から1コマ、中学校における50分のごく一般的な授業を指導案を元にして再現します。ストップモーション方式で、主なところで授業を止めてねらいや予想される生徒の答えなどについて検討します。あわせて指導案の書き方について学びます。		
第3回	指導案（指導細案）の作成方法Ⅱ：授業再現を通して指導案の書き方を学ぶ	教科書の第4章2節を読み、あわせてテキストのその範囲の所（39 江戸幕府の内政Ⅰ～43 江戸幕府の外交Ⅱ）の空欄補充や右頁の作業をしておいて下さい。	4時間
	歴史分野の近世史の中からもう1コマ、中学校における少し特別な50分の授業を指導案を元にして再現します。ストップモーション方式で、主なところで授業を止めてねらいや予想される生徒の答えなどについて検討します。あわせて指導案の書き方について学びます。		
第4回	教材の収集・作成と活用 1 実物教材の収集と活用について	テキストの「31 戦国地図のぬりかえ」～「43 江戸幕府の外交Ⅱ」の各頁にはどのような実物教材が紹介されていますか。それは、どのような学習効果をねらったものだと考えられますか。いくつかについてあなたなりに考えておいて下さい。	4時間
	教材研究の究極の一例として、実物教材をとりあげます。実物に勝る説得力の大きいものはありません。どんな実物教材を準備できるか、またどう活用するかを具体的に解説します。		
第5回	教材の収集・作成と活用 2 模造紙教材の作成と活用について	テキストの「31 戦国地図のぬりかえ」～「43 江戸幕府の外交Ⅱ」の各頁の資料を模造紙に書くとなると、どんな発問を用意できますか、考えておいて下さい。レポート用紙に、模造紙のミニチュア版（縮小版・本物は黒板いっぱいに作ります。教室中から見えるような大きさです）を作っておいてください。合わせてその作品を使った発問も考えておいて下さい。	4時間
	模造紙に書くことは、板書（黒板に書く）時間を節約するばかりではなく、考察（アクティブラーニング）を促す教材として活用できます。どんな模造紙教材を作れるか、またどう活用するかを具体的に解説します。		
第6回	教材の収集・作成と活用 3 地図教材の活用について	あなたならば、どのような地図を用意しますか。テキストの「31 戦国地図のぬりかえ」～「43 江戸幕府の外交Ⅱ」の範囲で考え、手書きでいいので書いてみて下さい。合わせてこれを使った発問も考えておいて下さい。	4時間
	地理分野と歴史分野は密接に関係します。ただ、歴史分野の地図には時間の流れが伴います。平面の地図をどのように活用したら時間の経過を学習できるでしょうか。地図単独の活用と他の教材と合わせて使う方法などを紹介します。		
第7回	教材の収集・作成と活用 4 視聴覚教材の作成と活用について	あなたならば、どのような視聴覚教材を用意できますか。テキスト「31 戦国地図のぬりかえ」～「49 水戸藩『大日本史』を読む」の範囲で考え、手書きでいいので紹介して下さい。合わせてこれを使った発問も考えておいて下さい。テキスト「44 元禄の政治と正徳の治」～「49 水戸藩『大日本史』を読む」までの空欄補充と考察や作業をしておいて下さい。	4時間
	視覚や聴覚に訴えかける教材は授業を活性化するものですが、これに頼りすぎると冗長になり、かえって間延びしてしまいます。視聴覚教材という写真や動画だけではなく音の教材も考えられます。近世・近代の音とはどんな教材が考えられるか。さまざまな視聴覚教材を紹介します。		
第8回	教材の収集・作成と活用 5 ポスター・掲示物教材の活用について	あなたならば、どのようなポスター・掲示物教材を用意できますか。テキスト「31 戦国地図のぬりかえ」～「49 水戸藩『大日本史』を読む」の範囲で考え、手書きでいいので紹介して下さい。合わせてこれを使った発問も考えておいて下さい。	4時間
	世の中には画像や動画があふれています。その中で、じっくり見せられるポスターや掲示物は、その存在を主張しようとしているかのように、見る者の目を引こうとします。これを教材化できないか。そもそもどこにあるか、またどのような視点で探せばよいのか、その活用方法についても解説します。		
第9回	教材の収集・作成と活用 6 他教科との連携 文学作品の教材化について	教科書の江戸時代にあたる第4章3節を読み、あわせてテキストのその範囲の所（45 商品生産の発達～57 化政文化）の空欄補充や作業をしておいて下さい。そして文学作品として何をとりあげるか。もちろんその時代をテーマにしていれば近現代のものでもよい。あなたならば何をとり上げるか、考えておいて下さい。	4時間
	国語科とのコラボレーション教材でもある文学作品を取り上げます。これを社会科の授業にしなければならない。興味関心を引くものをどう使うか。図書室にもある本から教材化を試みます。		
第10回	指導案（指導細案）の作成Ⅰ：指導案を協議する	あらかじめ、その範囲に関係するところ（教科書、指導要領、テキスト）を読んで下調べをしておいて下さい。どういった教材を使うか、その目的は何かを考えておいて下さい。	4時間
	江戸時代の幕政改革を範囲（テキスト「50 享保の改革」「51前半 田沼の改革」「51後半 寛政の改革」のうちから1つを選ぶ）としてどこか1つのテーマをとりあげ、指導案を作成します。その単元で教えるべきことは何か、学習指導要領や教科書、テキストから単元目標をふまえて、教材として何をを用意するか考えます。同じテーマを選んだ人と組んで、意見交換し、まず指導案を完成します。		
第11回	指導案（指導細案）の作成Ⅱ：指導過程を考え、指導細案を考える	指導案をもとに指導細案を作ります。あらかじめ指導案は完成して提出して下さい。	4時間
	選んだテーマの指導案の細案を作成します。そして、50分授業を「導入」「展開1」「展開2」「展開3」「まとめ」と分けるとします。各5分～10分で考えるとすると、自分が担当する部分を選び、使用する教材と合わせてどう使うかを考えて、時間配分や教材の提示の仕方・活用方法を検証しつつ、指導細案を完成させます。		

第12回	模擬授業と相互評価Ⅰ：グループAの模擬授業から学ぶ	模擬授業の準備をしておくこと。後の時間で する者は前の授業者の反省点を活かせるはず なので、よりの確な準備ができるはず。また、 先に模擬授業をした者は、自分のことを踏まえて 深く評価できるはず。心して取り組んでおくこと。	4時間
第13回	模擬授業と相互評価Ⅱ：グループBの模擬授業から学ぶ	模擬授業の準備をしておくこと。後の時間で する者は前の授業者の反省点を活かせるはず なので、よりの確な準備ができるはず。また、 先に模擬授業をした者は、自分のことを踏まえて 深く評価できるはず。心して取り組んでおくこと。	4時間
第14回	模擬授業と相互評価Ⅲ：グループCの模擬授業から学ぶ	模擬授業の準備をしておくこと。後の時間で する者は前の授業者の反省点を活かせるはず なので、よりの確な準備ができるはず。また、 先に模擬授業をした者は、自分のことを踏まえて 深く評価できるはず。心して取り組んでおくこと。	4時間
第15回	模擬授業の修正案	自分の担当した授業と、自分以外が担当した 授業について改善点を提案してもらいます。 準備しておいて下さい。	4時間

授業科目名	社会科・公民科教育法 I				
担当教員名	丹松美代志				
学年・コース等	3年	開講時期	前期	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	中学校で社会科の授業を担当していました。また、社会科教育研究会の役員として、社会科教育の研究をリードしてきました。現在、公開研究会の指導・助言を行っています。				

授業概要

社会科という教科の本質の理解に立って、理論的な問題を授業実践へと具体化する取り組みを行います。「協同的な学び」の理論に基づく授業実践の紹介や授業分析を交えつつ、社会科・公民科の授業実践能力の向上を目指します。2～4人でグループを編成し、中学教科書(公民的分野)の中単元の単元目標・指導計画・評価規準等を作成します。その後、各自が担当する小単元の指導細案を作成して模擬授業を実施し、相互評価します。公民的分野の授業力の獲得が狙いです。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1 . DP3. 専門的知識・技能を実践で発揮する力	伝える力	他人の意見や模擬授業について、自分の意見を伝えたり、的確に批評することができる。
汎用的な力		
1 . DP4. 課題発見		学び合う力：「協同的な学び」の理論について正確に把握することができる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・ 課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
- ・ 問答法・コメントを求める
- ・ 振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)
- ・ 協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
- ・ 発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)
- ・ 課題解決学習(PBL)

課題や取組に対する評価・振り返り

- ・ 実習や実技に対して個別にコメントします
- ・ 実技・実習後、全体に向けてコメントします
- ・ 提出物にコメント・評価をつけて返却します
- ・ 提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を行わない。

成績評価の方法・評価の割合

評価の基準

毎回の小レポート	20%	： 各回1～2点で評価し、合計20点満点とする。 ・ 授業内容を踏まえた論述ができていているかを見る。
小グループの課題作成や発表	20%	： 中単元の目標、単元の指導計画、単元の評価規準等を20点満点で評価する。 ・ グループで協力しているか、授業内容を反映しているかどうかで判断する。
指導案の作成	30%	： 「協同的な学び」の理念を理解し、必要項目をあげているか、細案になっているかで判断し、30点満点で評価する。
模擬授業と相互評価	30%	： 指導案を生かしているか、「協同的な学び」を意識できているか、協同的学びの視点で評価できているかで判断し、30点満点で評価する。

使用教科書

指定する

著者	タイトル	出版社	出版年
文部科学省	・ 中学校学習指導要領解説社会編	・ 日本文教出版	・ 2017年
丹松美代志・美恵子	・ 教えるから学ぶへ	・ 晃洋書房	・ 2019年

参考文献等

- ・ 中学校における対話と協同/佐藤雅彰/ぎょうせい
- ・ 現代公民科教授の理論/木下百合子/教育出版センター
- ・ 新社会科授業づくりハンドブック 中学校編/全国社会科教育学会/明治図書
- ・ 学校を改革する/佐藤学/岩波書店

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間：

場所：

備考・注意事項： Eメールでの質問を受けます。その時は、必ず、大学名・学部名・学籍番号・名前を書いてください。(Eメールアドレス：mtosa29h@iris.eonet.ne.jp)

授業計画

第1回

ガイダンス：授業のねらいと進め方、授業評価について説明

テキスト『中学校学習指導要領解説 社会編』総説<社会科改定の趣旨>を読んでまとめてください。

授業外学修課題にかかる目安の時間

4時間

	めざす授業(協同的な学びの公民的分野の授業)の実際を紹介し ます。		
第2回	社会とはどんな教科かを説明 テキスト『中学校学習指導要領解説 社会編』総説を使いながら、指導案の要件についてモデルを示しながら解説します。グループで担当する教科書の中単元を決めます。テキスト『教えるから学ぶへ』を使って協同的な学びの全体像について説明します。	テキスト『中学校学習指導要領解説 社会編』総説<社会科改定の要点>を読んでまとめてください。	4時間
第3回	学習指導案の要件について説明 テキスト『中学校学習指導要領解説 社会編』総説及び『教えるから学ぶへ』を使いながら、指導案の要件についてモデルを示しながら解説します。参考資料『学校を改革する』を使って「21世紀の社会と学校」について説明します。	テキスト『中学校学習指導要領解説 社会編』総説・『教えるから学ぶへ』<社会科の目標及び内容(公民的分野)>を読んでまとめてください。	4時間
第4回	公民的分野の課題について説明 テキスト『中学校学習指導要領解説 社会編』総説を使いながら、公民的分野の課題について解説します。グループで、中単元の目標・単元計画・単元の評価規準等の作成の準備をします。参考資料『学校を改革する』を使って「学びの共同体のビジョンと哲」について説明します。	テキスト『中学校学習指導要領解説 社会編』総説<指導計画の作成と内容>を読んでまとめてください。	4時間
第5回	協同的な学びの授業づくりについて説明(その1) テキスト『中学校学習指導要領解説 社会編』総説及び『教えるから学ぶへ』を使いながら、協同的な学びの授業づくりについて解説します。グループで、中単元の目標・単元計画・単元の評価規準等の作成をします。参考資料『学校を改革する』を使って「学びの共同体の活動システム」について説明します。	中単元の目標・単元計画・単元の評価規準等を完成してください。	4時間
第6回	協同的な学びの授業づくりについて説明(その2) テキスト『教えるから学ぶへ』を使って、共有の課題と発展の課題の2段階の展開について、具体例を示しながら解説します。各自が担当する小単元を決めます。参考資料『学校を改革する』を使って「協同的な学びによる授業改革」について説明します。	担当することになった小単元の教材研究を始めてください。	4時間
第7回	公民的分野の授業のビデオカンファレンス 公民的分野の授業ビデオを通して見て、分析します。グループで、中単元の目標・単元計画・単元の評価規準等の手直しをします。そして、「教師間の同僚性の構築」について説明します。	グループの課題の手直しを完成してください。	4時間
第8回	指導案の展開例の書き方について説明 指導案のモデルを示し、指導案の作り方を解説します。特に、教科書の有効活用について、テキスト『教えるから学ぶへ』を使って解説します。参考資料『学校を改革する』を使って「保護者との連帯、教育委員会との連携」について説明します。	個人の展開例の構想を練ってください。	4時間
第9回	板書計画とワークシートについて説明 テキスト『教えるから学ぶへ』を使って、板書のねらいとワークシートの位置づけについて解説します。各自の展開例の課題設定を検討します。参考資料『学校を改革する』を使って「国内外のネットワーク」について説明します。	個人の展開例の1次案を完成してください。	4時間
第10回	NIEと公民科教育について説明 テキスト『教えるから学ぶへ』を使って、NIEの授業への活用について解説します。	板書計画とワークシートを完成してください。	4時間
第11回	丹松の模範授業「選挙と選挙をめぐる問題点」 小グループでAKB48の総選挙と国政選挙を比較しながら、投票率アップについて検討します。どの資料を選択するのか、追求します。	個人の展開例1次案の手直しをしてください。	4時間
第12回	18歳選挙権をめぐる課題について説明 主権者教育の観点から、昨年の国政選挙から導入された18歳選挙権の社会科教育上の課題を探ります。板書計画とワークシートの手直しをします。	次回からの模擬授業の準備をしてください。	4時間
第13回	模擬授業(その1) 教科書を活用して、各自が模擬授業をします。参観者は、相互評価シートに記入します。それぞれにコメントをします。	板書計画とワークシートの手直しを完成させてください。	4時間
第14回	模擬授業(その2) 教科書を活用して、各自が模擬授業をします。参観者は、相互評価シートに記入します。それぞれにコメントをします。	個人の学習指導案を完成させてください。	4時間
第15回	模擬授業(その3) 教科書を活用して、各自が模擬授業をします。参観者は、相互評価シートに記入します。それぞれにコメントをします。全15回の振り返りをします。	模擬授業を振り返って、自らの指導案を見なおしてください。	4時間

授業科目名	社会科・公民科教育法Ⅱ				
担当教員名	丹松美代志				
学年・コース等	3年	開講時期	後期	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	社会科教育研究会や研究授業の指導助言をしています。				

授業概要

社会科・公民科教育法Ⅰを受けて、社会科という教科の本質の理解に立って、理論的な問題を授業実践へと具体化する取り組みを行います。「協同的な学び」の理論に基づく授業実践の紹介や授業分析を交えつつ、社会科・公民科の授業実践能力の向上を目指します。2～4人でグループを編成し、高校の公民科教科書の中単元の単元目標・指導計画・評価規準等を作成します。その後、各自が担当する小単元の指導細案を作成して模擬授業を実施し、相互評価します。公民科の授業力の獲得が狙いです。

養うべき力と到達目標

確かな専門性

- 1 . DP2. 専門的知識・技能、職業理解

具体的内容：

伝える力：他人の意見や模擬授業について、自分の意見を伝えたり、的確に批評することができる。

目標：

- ・学習指導案の必要項目を理解し、具体的に指導案を作成できる。
- ・指導案を基に、模擬授業ができる
- ・教育実習に向けての力量を獲得できる。

汎用的な力

- 1 . DP4. 課題発見

傾聴力：「協同的な学び」の理論について正確に把握することができる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・課題（演習、調査、レポート、ケースメソッドなど）
- ・問答法・コメントを求める
- ・振り返り（振り返りシート、シャトルシートなど）
- ・協同学習（ペアワーク、グループワークなど）
- ・発表（スピーチ、プレゼンテーションなど）
- ・課題解決学習（PBL）

課題や取組に対する評価・振り返り

- ・実技・実習後、全体に向けてコメントします
- ・提出物にコメント・評価をつけて返却します
- ・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を行わない。

成績評価の方法・評価の割合

評価の基準

毎回の小レポート	20%	： 授業内容を踏まえた自分なりの論述ができているかどうかを見る。
小グループの課題作成や発表	20%	： グループとしての作業や発表を20点満点で評価する。 ： グループで協力しているか、授業内容を反映しているかどうかで判断する。
指導案の作成	30%	： 「協同的な学び」の理念を理解し、必要項目をあげているか、細案になっているかで判断し、30点満点で評価する。
模擬授業と相互評価	30%	： 指導案を生かしているか、「協同的な学び」を意識できているか、協同的学びの視点で評価しているかで判断し、30点満点で評価する。

使用教科書

指定する

著者	タイトル	出版社	出版年
文部科学省	・ 高等学校学習指導要領解説 公民編	・ 教育出版	・ 2017年
佐藤学ほか	・ 活動的で協同的な学びへ「学びの共同体」の実践 学びが開く！高校の授業	・ 明治図書	・ 2015年

参考文献等

- ・社会科教育実践ハンドブック/全国社会科教育学会/明治図書
- ・優れた社会科授業の基盤研究Ⅱ 中学校・高等学校の優れた社会科授業の条件/全国社会科教育学会/明治図書

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間：

場所：

備考・注意事項： Eメールでの質問を受けます。その時は、必ず、大学名・学部名・学籍番号・名前を書いてください。(Eメールアドレス：mtanmatsu@iris.eonet.ne.jp)

授業計画

第1回

ガイダンス：授業のねらいと進め方、授業評価について説明

解説公民編を使って、公民科の目標を小・中の社会科の目標と比較してください。

授業外学修課題にかかる目安の時間

4時間

	解説公民編を使って、社会・公民科とはどんな教科かを解説します。		
第2回	小中高をつなぐ社会科・公民科について説明 解説公民編を使って、社会の在り方を考察する基盤としての「幸福、正義、公正」を解説し、中学の「効率・公正、対立・合意」という社会の見方・考え方と対比します。グループを編成し、現代社会の教科書を使った模擬授業の担当する章を決めます。	テキスト『活動的で協同的な学びへ「学びの共同体」の実践 学びが開く！高校の授業』コラムP.154～167を読んで、自分の感想を持てるようにしてください。	4時間
第3回	「協同的な学びに」について説明 テキスト『活動的で協同的な学びへ「学びの共同体」の実践 学びが開く！高校の授業』コラムP.154～167等を使って、協同的な学びについて解説します。指導案のモデルを示しながら、指導案の作り方を解説します。	テキスト『活動的で協同的な学びへ「学びの共同体」の実践 学びが開く！高校の授業』コラムP.168～171を読んで、自分の感想を持てるようにしてください。	4時間
第4回	「協同的な学び」の授業づくりについて説明 テキスト『活動的で協同的な学びへ「学びの共同体」の実践 学びが開く！高校の授業』コラムP.168～171等を使って、授業づくりの課題について解説します。各自が模擬授業する小単元を決めます。	テキスト『活動的で協同的な学びへ「学びの共同体」の実践 学びが開く！高校の授業』第3章3P.91～97を読んで、自分の感想を持てるようにしてください。	4時間
第5回	授業づくりの実際について説明 テキスト『活動的で協同的な学びへ「学びの共同体」の実践 学びが開く！高校の授業』第3章3P.91～97等を使って、教科書に立ち返りながら授業づくりの実際について解説します。	解説編公民の現代社会のところを読んで整理してください。	4時間
第6回	現代社会の目標と内容について説明 解説編公民を使って、現代社会の目標と内容について解説します。新教科「公共」にも触れます。	解説編公民の倫理のところを読んで整理してください。	4時間
第7回	倫理の目標と内容について説明 解説編公民を使って、倫理の目標と内容について解説します。	解説編公民の政治・経済のところを読んで整理してください。	4時間
第8回	政治・経済の目標と内容について説明 解説編公民を使って、政治・経済の目標と内容について解説します。	TPPについて政府の資料に目を通しておいてください。模擬授業の中単元を決めてください。	4時間
第9回	校種、教科を横断する課題について説明(その1) 小中高で扱うTPPについて解説します。実践例のDVDを視聴します。	裁判员裁判について、制度の概要を確認しておいてください。模擬授業の指導案、板書計画、ワークシートを作成してください。	4時間
第10回	校種、教科を横断する課題について説明(その2) 小中高で扱う裁判员裁判について解説します。指導案の中間チェックをします。	ESDについて、中学の教科書で振り返っておいてください。指導案、板書計画、ワークシートを完成してください。	4時間
第11回	校種、教科を横断する課題について説明(その3) ESDについて解説します。実践例のDVDを視聴します。	模擬授業の準備をしてください。	4時間
第12回	模擬授業(その1) 各自が模擬授業をします。参観者は、相互評価シートに記入します。それぞれにコメントをします。	授業で示した模擬授業の課題に基づいて、指導案の手直しをしてください。	4時間
第13回	模擬授業(その2) 各自が模擬授業をします。参観者は、相互評価シートに記入します。それぞれにコメントをします。	授業で示した模擬授業の課題に基づいて、指導案の手直しをしてください。	4時間
第14回	模擬授業(その3) 各自が模擬授業をします。参観者は、相互評価シートに記入します。それぞれにコメントをします。	授業で示した模擬授業の課題に基づいて、指導案の手直しをしてください。	4時間
第15回	アクティブ・ラーニングの課題について説明 次の学習指導要領の核となるアクティブ・ラーニングの課題について解説します。	テキスト『活動的で協同的な学びへ「学びの共同体」の実践 学びが開く！高校の授業』の「はじめに」を読んで吟味してください。	4時間

授業科目名	道徳教育の指導法（中等）				
担当教員名	服部敬一				
学年・コース等	2年	開講時期	前期	単位数	2
授業形態	講義形式を中心に進めるが、質疑用プリントなどを用いて受講者が参加する授業を実施する。その際グループワークも実施する。				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	小学校教諭（23年）、小学校教頭（5年）、教育委員会指導主事（2年）、小学校長（7年）（全15回）				

授業概要

道徳教育の基盤である道徳の意味や善悪、正しさについての理解をもとに、児童に道徳教育を行うことの意義を理解させるとともに、「特別の教科 道徳（道徳科）」の特質や指導方法について論じる。その際、学校の教育活動全体を通じて行う道徳教育との違いや関連について論じながら、学級づくり、児童理解、生活指導のあり方についても取り上げる。その中で、道徳教育の理論や方法、道徳性の発達について、実際の児童の姿を具体的に示しながら、教師として求められる姿勢や態度、指導力について論じる。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1．DP2. 専門的知識・技能、職業理解	道徳教育に関する専門的な知識の習得	道徳的に生きることにはどのような意味があるのか、道徳を教えるとはどういうことかについて理解することができる。
2．DP3. 専門的知識・技能を実践で発揮する力	「特別の教科 道徳」の指導に関する専門的な基礎知識と実践的な技能の獲得	「特別の教科 道徳」の授業理論、教材理解、指導方法、評価について理解し、実践的な授業力や評価する力の基礎を身につけることができる。
汎用的な力		
1．DP4. 課題発見		物事を根本から考え直すことで、課題に気づくことができる。
2．DP5. 計画・立案力		目標を明確にし、それを達成するための計画を立案することができる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・実験、実技、実習
 - ・問答法・コメントを求める
 - ・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)
 - ・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
 - ・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)
 - ・ディベート、討論
 - ・その他(以下に概要を記述)
- 模擬授業

課題や取組に対する評価・振り返り

- ・実技・実習後、全体に向けてコメントします
- ・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を「不可」とします。

成績評価の方法・評価の割合

評価の基準

シャトルシート	30%	： 授業内容を正しく理解できているかという観点から評価する。
指導案作成	10%	： それまでの授業内容の理解に基づいた効果的な指導案が作成できているかどうかを評価する。
受講態度	10%	： 授業に積極的に参加し、進んで課題に取り組む態度を評価する。
期末試験「筆記」	50%	： 授業内容の理解度を評価する。

使用教科書

指定する

著者	タイトル	出版社	出版年
文部科学省	・ 中学校学習指導要領解説 特別の教科 道徳編	・ 教育出版	・ 2017年

参考文献等

- ・授業の中で配布する。
- ・授業の中で適時紹介する。

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 水曜2限・昼休み
場所： 研究室
備考・注意事項： 具体的な質問方法については、初回授業時に周知します。

授業計画

第1回	道徳的に生きることの意味	講義の内容を配付資料やノートを用いて復習し、道徳的に生きることについて理解を深める。	授業外学修課題にかかる目安の時間 4時間
-----	--------------	--	-------------------------

	道徳的に生きることは世知と一致しないように見えるかも知れない。果たしてそうなのか？道徳的に生きることの意味について理解を深める。		
第2回	価値観の多様化の中の道徳教育 ～道徳の問題に正解はあるか～ 現在は価値観の多様化と言われる社会である。したがって、道徳の問題には答えがないように思われがちである。果たしてそうなのか？価値観が多様化する社会における道徳教育はどのように行われるべきかについて考えを深める。	講義の内容を配付資料やノートを用いて復習し、価値観が多様化する社会における道徳教育について考えを深める。	4時間
第3回	児童（子ども）と社会と道徳上の課題 今の日本社会における子どもの道徳に関わる問題について話し合うとともに、資料をもとに理解を深める。	講義の内容を配付資料やノートを用いて復習し、子どもの道徳上の問題について考えを深める。	4時間
第4回	学習指導要領がめざす道徳教育 『小学校学習指導要領』における道徳教育が「学校の教育活動全体を通じて行う道徳教育」と「特別の教科 道徳（道徳科）」によって構成されていること、それぞれの特質や機能について理解する。	『小学校学習指導要領』やノートを用いて復習し、「学校の教育活動全体を通じて行う道徳教育」と「特別の教科 道徳」の特質について整理し、記憶する。	4時間
第5回	道徳教育において分かることの意味 道徳教育では「分かること」よりも「感じること」「意欲を高めること」が重要であると思われがちである。ここで、今一度、道徳教育において分かることの意味について考え、理解を深める。	講義の内容を配付資料やノートを用いて復習し、子どもの道徳上の問題について考えを深める。	4時間
第6回	「特別の教科 道徳（道徳科）」の教材理解 「特別の教科 道徳（道徳科）」の教科書に載っている教材を用いて、それで何を指導するか、どんなことに気付かせるかについての理解を深める	講義の内容を教科書や配付資料、ノートを用いて復習し、「特別の教科 道徳（道徳科）」の教材理解について考えを深める。	4時間
第7回	「特別の教科 道徳（道徳科）」の授業構想 前時の教材を用いてどのような授業をすればよいかを構想し、それを交流し合う中で、「特別の教科 道徳（道徳科）」の授業理論について理解を深める。	講義の内容を教科書や配付資料、ノートを用いて復習し、「特別の教科 道徳（道徳科）」の授業づくりについて考えを深めるとともに、授業構想を立てる。	4時間
第8回	「特別の教科 道徳（道徳科）」の指導案発表会 前時の授業及びその後で作成した学習指導案の発表会を行い、指導案についての意見を述べ合い、指導者の指導を通して「特別の教科 道徳（道徳科）」の授業についての理解を深める。	講義の内容を教科書や配付資料、ノートを用いて復習し、「特別の教科 道徳（道徳科）」の授業について考えを深めるとともに、学習指導案を改善する。	4時間
第9回	「特別の教科 道徳（道徳科）」の師範授業 前時と同じ教材を用いて指導者が模範授業（模擬授業）を行い、その授業について意見を述べ合い、指導者の指導を通して「特別の教科 道徳（道徳科）」の授業についての理解を深める。	講義の内容を教科書や配付資料、ノートを用いて復習し、「特別の教科 道徳（道徳科）」の授業について考えを深めるとともに、学習指導案を改善する。	4時間
第10回	「特別の教科 道徳（道徳科）」の授業づくり これまでの模擬授業、師範授業を通して深まった考えに立ち、新たな教材を用いて指導案を作成する。	講義の内容を教科書や配付資料、ノートを用いて復習し、「特別の教科 道徳（道徳科）」の授業について考えを深める。	4時間
第11回	「特別の教科 道徳（道徳科）」の模擬授業の検討会 前時に作成した指導案について、検討し、課題や改善点を明確にすることで、「特別の教科 道徳（道徳科）」の授業についての理解を深める。	講義の内容を教科書や配付資料、ノートを用いて復習し、「特別の教科 道徳（道徳科）」の授業について考えを深める。	4時間
第12回	「特別の教科 道徳（道徳科）」の評価 『学習指導要領』が示す「特別の教科 道徳（道徳科）」の評価について理解するとともに、授業評価、子どもの評価の意味についても理解する。	講義の内容を『小学校学習指導要領解説 特別の教科 道徳編』や配付資料、ノートを用いて復習し、「特別の教科 道徳（道徳科）」の評価について考えを深める。	4時間
第13回	「特別の教科 道徳（道徳科）」の指導計画の作成 「特別の教科 道徳（道徳科）」の指導計画の作成について、『小学校学習指導要領』の基本的な考え方、その意味について理解する。	講義の内容を『小学校学習指導要領解説 特別の教科 道徳編』や配付資料、ノートを用いて復習し、「特別の教科 道徳（道徳科）」の指導計画について考えを深める。	4時間
第14回	学校の教育活動全体を通じて行う道徳教育 学校における道徳教育は、学校の教育活動全体を通じて行うものであることを理解した上で、道徳教育の全体計画をもとに、その特質、教育の場、教育の方法、手だてについて具体的に理解する。	講義の内容を『小学校学習指導要領解説 特別の教科 道徳編』や配付資料、ノート等を用いて復習し、学校の教育活動全体を通じて行う道徳教育について理解を深める。	4時間
第15回	学級づくりと道徳教育 小学校教育における学級は、道徳性を育む上で重要な場である。そこで、どのような目標をもって、どのように児童（子ども）を育てていくのか、その基本的な考え方について理解を深める。	講義の内容を配付資料やノートを用いて復習し、学級づくりと道徳教育について理解を深める。	4時間

授業科目名	特別活動				
担当教員名	松田修				
学年・コース等	3年	開講時期	前期	単位数	1
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	小学校教諭、教育委員会、校長として勤務。 特別活動に関わる研究部にて、学級活動・児童・生徒会活動の実践指導を行う（全8回）				

授業概要

特別活動が教育活動の中で、児童・生徒の人間形成にどのような役割を果たしているのかを理解するとともに、特別活動を推進していく上で必要な基礎的・基本的な知識・技能を修得することを目的とする。また、特別活動は「いじめ・不登校などの予防的な役割」を果たすなど道徳教育とのつながりやキャリア教育の要として期待されており、特別活動の基盤である「学級活動」と「他の教育活動」との関連についても理解を深め、教育現場での様々な課題解決に向けての指導の在り方を探る。

養うべき力と到達目標

確かな専門性 1 . DP2. 専門的知識・技能、職業理解	具体的内容： 特別活動についての基礎的・基本的な理解	目標： 特別活動の指導法や人間形成に果たす役割が理解できる
汎用的な力 1 . DP6. 行動・実践		「人間関係形成」「社会参画」「自己実現」などについて、その大切さを自分なりに自覚し、行動しようとする事ができる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
- ・問答法・コメントを求める
- ・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)
- ・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)

課題や取組に対する評価・振り返り

- ・実技・実習後、全体に向けてコメントします
- ・提出物にコメント・評価をつけて返却します

成績評価

注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ、放棄とみなし、成績評価を行わない。

成績評価の方法・評価の割合

評価の基準

授業振り返りシート	40%	： 「授業内容を的確にまとめて理解できているか」という観点から評価する。
期末テスト	60%	： 「授業内容についての的確に理解できているか」という観点から評価する。

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

- ・中学校学習指導要領解説 特別活動編 文部科学省 東山書房 平成29年7月

履修上の注意・備考・メッセージ

授業後は配布プリントをもとに授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて備えること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間：

場所：

備考・注意事項： 初回の授業時に指示します。

授業計画

回数	授業内容	授業内容	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	オリエンテーション 教育課程における特別活動の位置づけ、教育的意義、指導の基本 本授業の進め方や目標、評価の在り方について確認する。また、教育課程における特別活動の位置付けや教育的意義、指導の基本について学ぶ。	特別活動の経験や体験について、具体的な活動について整理しておく。	4時間
第2回	特別活動の歴史の変遷 アメリカの教科外活動に源流をみる特別活動についての流れや日本の特別活動の歴史の変遷を学ぶ。	配布プリントをもとに復習し、特別活動の歴史の変遷についての理解を深める。	4時間
第3回	特別活動の特質と指導原理 特別活動の目標や内容、特質などから特別活動で大切にしたい視点や指導原理について学ぶ。	配布プリントをもとに復習し、特別活動の特質、指導原理について理解を深める。	4時間
第4回	学級活動 学級活動の目標・内容と指導法 学級活動の目標・内容と指導法（合意形成・意思決定）について学ぶ。	配布プリントをもとに復習し、学級活動の目標・内容、指導法等について理解を深める。	4時間
第5回	生徒会活動 目標・内容と指導法 生徒会活動の目標や内容及び指導法について学ぶ。	配布プリントをもとに復習し、生徒会活動の目標や内容及び指導法について理解を深める。	4時間
第6回	学校行事の目標・内容と指導法	配布プリントをもとに復習し、学校行事の目標・内容・指導法について理解を深める。	4時間

授業科目名	教育方法論				
担当教員名	山本はるか				
学年・コース等	2年	開講時期	後期	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目	該当しない				
実務経験の概要					

授業概要

本講義では、学校現場において、教育目標を実現するために何をどのように教えるかという教育方法の課題を取り扱い、生徒を指導するための方法・技術を学ぶことを目的とする。具体的には、教育目標・教育内容・教材・教授行為・教育評価の各側面から、授業実践を行う上で基礎となる知識を修得することをめざす。そして、教育現場での実践に生かせるような教育方法の理論的知識や概念、および情報機器の活用などを含めた今日的課題について理解を深め、多様な側面から授業づくりにおける実践的な力を養う。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1．DP2. 専門的知識・技能、職業理解	教育方法に関する基礎的な考え方・知識	教育方法に関する基礎的な考え方や知識を修得することができる。
2．DP3. 専門的知識・技能を実践で発揮する力	学習指導案の作成と授業実践	教育方法の基本的な考え方や知識を学習指導案の作成と授業実践に活用することができる。
汎用的な力		
1．DP4. 課題発見		授業づくりに際して、教員が直面する課題を見出すことができる。
2．DP5. 計画・立案力		発見した課題の解決に向けて、学習指導案を作成することができる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
- ・実験、実技、実習
- ・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)

課題や取組に対する評価・振り返り

- ・実技・実習後、全体に向けてコメントします
- ・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を行わない。

成績評価の方法・評価の割合

評価の基準

定期試験	50%	： 教育方法に関する基礎的な知識を修得できているかどうかを判断する。
授業内課題を含むレポート	50%	： 教育方法に関する基礎的な知識を用いて、学習指導案を作成できているかどうかを判断する。

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

- ・文部科学省『中学校学習指導要領解説』東山書房、2018年
- ・文部科学省『高等学校学習指導要領解説』
- ・田中耕治編『時代を拓いた教師たち』日本標準、2005年
- ・田中耕治編『時代を拓いた教師たちII』日本標準、2009年
- ・奈須正裕『教師という仕事と授業技術』ぎょうせい、2006年
- ・田中耕治編著『教職教養講座 第5巻 教育方法と授業の計画』協同出版、2017年

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間：	月曜日 3限
場所：	研究室（本館5F）

授業計画

授業計画		授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	オリエンテーション：「教育方法」の範囲、授業を構成する要素 本講義の目標、内容、評価を知る。授業を成立させる要素を知る。	予習シートの作成：行動主義、構成主義 4時間
第2回	教育目標論：教授法・学習観の変遷 教授法・学習観の変遷を知り、教育目標について考える。	予習シートの作成：指導言 4時間
第3回	学習者の学びと教育内容をつなぐ教授行為（1）教師の指導言 教師の指導言の重要性、種類を知る。	予習シートの作成：発問 4時間
第4回	学習者の学びと教育内容をつなぐ教授行為（2）発問の工夫 教師の教授行為のうち、特に「発問」の意義を知り、発問づくりを行う。	予習シートの作成：教育内容、教材 4時間
第5回	学習者の学びを高める教材・教具論（1）教育内容・教材・教具の区別 教育内容・教材・教具について、それぞれの定義を押さえ、区別することの意義を知る。	予習シートの作成：教材解釈、教材開発 4時間

第6回	学習者の学びを高める教材・教具論（２）教材解釈・教材開発 教材解釈と教材開発の違いを知る。学習指導案で使用する教材を開発する。	予習シートの作成：学習形態	4時間
第7回	学びの様式と指導形態（１）学習集団論、学習形態 能力別編成、学び合いの授業などを知る。	予習シートの作成：板書	4時間
第8回	学びの様式と指導形態（２）板書、情報機器の活用 板書の方法、情報機器の活用方法を知る。	予習シートの作成：教育評価	4時間
第9回	教育評価論：目標と評価の一体化、目標に準拠した評価、パフォーマンス評価 教育評価論の歴史と、今求められる評価の考え方と方法を知る。	これまでの学修内容を整理し、テストに備える。	4時間
第10回	中間まとめ、マイクロ・ティーチング・オリエンテーション 授業の導入の意義や目的を知り、導入5分間の授業づくりを行う。	テストの復習をする。マイクロ・ティーチングの構想と練習を行う。	4時間
第11回	マイクロ・ティーチング（１） 5分間の授業導入 5分間の授業導入を行う。	振り返りシートを作成する。	4時間
第12回	マイクロ・ティーチング（２） 分析 前回の振り返りを踏まえて、分析を行う。	振り返りシートを完成させる。	4時間
第13回	学習指導案の作成（１） 教育目標・教育内容の検討 学習指導案を作成するために、教育目標と教育内容を整理する。	学習指導案を作成する。	4時間
第14回	学習指導案の作成（２） 発問・教材の検討、授業展開の練り直し 学習指導案を完成させるために、発問や教材を検討し、授業全体の展開を練り直す。	学習指導案を完成させる。	4時間
第15回	まとめ グループで学習指導案を検討し、これからの教育実践の在り方について考察する。	学習指導案レポートの吟味、修正を行う。	4時間

授業科目名	教育相談				
担当教員名	米田薫				
学年・コース等	3年	開講時期	前期	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	中学校教諭として14年間勤務の後、教育委員会にて教育相談・適応指導教室担当として7年間従事。その後、公立中学校スクールカウンセラーを続けている。【全15回】				

授業概要

教育相談は、教育上の心理的な諸問題に対する援助活動で、学校で行われるものと教育相談機関で行われるものがある。本科目は前者における子どもや保護者の指導・援助に資する理論とスキルの習得を目指す。その意義や担うべき役割を問題解決的・予防的・開発的機能を踏まえ、個と集団の両面から授業を展開する。予防的・開発的教育相談の集団体験や個別面接のロールプレイを通じて教育相談の基礎を体得する。あわせて、いじめや不登校、学級経営、発達に課題のある子どもへの支援、家庭や他機関との連携についても理解を深める。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1．DP2. 専門的知識・技能、職業理解	教育相談に関する基本的な事項の理解	教育相談に対する関心を深め、基本的な事項を説明することができる。
2．DP3. 専門的知識・技能を実践で発揮する力	教育相談に関するスキルの習得	教育相談に関する習得したスキルをロールプレー等を通じて示すことができる。
汎用的な力		
1．DP8. 意思疎通		授業内の演習で内省した事柄を適切に自己開示することができる。
2．DP4. 課題発見		学校における教育相談の課題を見出すことができる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
- ・実験、実技、実習
- ・問答法・コメントを求める
- ・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)
- ・eラーニング、反転授業
- ・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
- ・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)
- ・シミュレーション型学習(ロールプレイ、ゲーム型学習など)

課題や取組に対する評価・振り返り

- ・実技・実習後、全体に向けてコメントします
- ・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を行わない。

成績評価の方法・評価の割合

評価の基準

授業内テスト	30%	： 授業内に実施する基礎的事項に関するテストにより評価する。
課題レポート類	45%	： 授業内に課した課題に関するレポートにより評価する。
ロールプレイ、課題プレゼンテーション等	25%	： 授業内に実施するロールプレイやプレゼンテーションにより評価します。

使用教科書

指定する

著者	タイトル	出版社	出版年
米田薫	『改訂版 厳選 教員が使える5つのカウンセリング』	ほんの森出版	2019年

参考文献等

日本教育カウンセラー協会編「教育カウンセラー標準テキスト」 図書文化 2013
他は授業中に紹介する。

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次の授業に向けて予習をすること。授業で体験したことをテキストを読んで理解を深める復習を心がけることを求める。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間：	木曜日2時間目
場所：	中央館5階127研究室
備考・注意事項：	質問はEメール(yoneda@osaka-seikei.ac.jp)でも対応する。件名に「教育相談質問：〇〇(送信者の氏名)」とした上で、本文に送信者の所属学部、学籍番号、名前を明記すること。

授業計画

第1回	教育相談とは	授業外学修課題にかかる目安の時間
	教育相談の定義、領域と内容 歴史と展開、学校教育相談の特質と学校内の体制について学びます。	4時間

第2回	教育相談の基礎 学校教育相談に用いられる諸理論とアセスメントについて学びます。	前時の復習と本時の予習。基本となる接し方のレポート作成	4時間
第3回	集団対象の教育相談（1）— 自己理解をテーマとする構成的グループエンカウンター 構成的グループエンカウターの自己理解を深めるエクササイズを体験します。	前時の復習と本時の予習。授業体験レポートの作成	4時間
第4回	集団対象の教育相談（2）— 自己受容を深める構成的グループエンカウンター 構成的グループエンカウターの自己受容をテーマとするエクササイズを体験します。	前時の復習と本時の予習。自己分析レポートの作成	4時間
第5回	集団対象の教育相談（3）— ソーシャルスキル教育 人間関係形成・問題解決・感情コントロールをテーマとするソーシャルスキル教育について学びます。	前時の復習と本時の予習。習得したスキルの活用レポート作成	4時間
第6回	集団対象の教育相談（4）— SEL 社会性と感情を育てる教育であるSELについて学びます。	前時の復習と本時の予習。グループで担当した課題の学修	4時間
第7回	個別面接の基本（1）— 非言語的側面 個別面接の際のポイントとなる非言語的側面について学びます。	前時の復習と本時の予習。グループで担当した課題の学修	4時間
第8回	個別面接の基本（2）— 言語的側面 個別面接の際のポイントとなる言語的側面について学びます。	前時の復習と本時の予習。グループで担当した課題の学修	4時間
第9回	個別面接の基本（3）— 模擬面接 個別面接の基本として学んだ事項について模擬面接を通じてスキルを磨きます。	前時の復習と本時の予習。模擬面接レポート作成	4時間
第10回	発達と学習についての理解と対応 テーマに関するグループ研究発表と対話で学びを深めます。	前時の復習と本時の予習。本時の課題レポート作成	4時間
第11回	不登校についての理解と対応 テーマに関するグループ研究発表と対話で学びを深めます。	前時の復習と本時の予習。本時の課題レポート作成	4時間
第12回	いじめ・反社会的行動についての理解と対応 テーマに関するグループ研究発表と対話で学びを深めます。	前時の復習と本時の予習。本時の課題レポート作成	4時間
第13回	支援を要する子どもの理解と集団を含む対応 テーマに関するグループ研究発表と対話で学びを深めます。	前時の復習と本時の予習。本時の課題レポート作成	4時間
第14回	キャリア教育とキャリアカウンセリング テーマに関するグループ研究発表と対話で学びを深めます。	前時の復習と本時の予習。本時の課題レポート作成	4時間
第15回	教育相談の現状と展望 チーム援助、外部機関との連携、保護者支援、危機対応について学びます。	前時の復習と本時の予習。最終レポートの作成	4時間

授業科目名	教育実習事前事後指導				
担当教員名	石井理之				
学年・コース等	4年	開講時期	通年	単位数	1
授業形態	教育実習に向けて、実習の基本的事項、学校現場の組織・服務上の注意等について解説を行います。また各自の実習校での学習指導案を作成し、どのような美術の授業おこなうのかを熟考し、相互討議をしながら模擬				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	公立中学校美術科教諭、教頭、校長及び教育委員会事務局で指導主事として勤務（第1回～第15回）				

授業概要

本科目では、教育実習に向けて必要な基本事項と心構え、学校現場の組織・服務上の注意等についての学習を行います。また、実習時の指導案を作成することを通して実習に対する目的を明確にします。さらに、受講者全員の教育実習での美術科授業シミュレーションを実施し、美術科授業運営についてグループで討議します。その後全体で討議を行い、授業内容の改善を図ります。教育実習終了後は、受講者全員が実習時に行った授業を紹介し、全体で振り返りを行い成果と課題、反省点について討議し総まとめを行います。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1．DP3. 専門的知識・技能を実践で発揮する力	教育実習において必要な知識、技能の習得	目標に対して授業を適切に計画し、実行できる。
汎用的な力		
1．DP6. 行動・実践		実教育実習において授業を指導教員の指導のもとにおこなう。自ら学ぼうとする意欲と態度
2．DP6. 行動・実践		実習授業および研究授業を指導教員の指導のもとにおこない、自ら学ぼうとする意欲と態度を持つことができる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
- ・実験、実技、実習
- ・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)
- ・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
- ・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)
- ・ディベート、討論

課題や取組に対する評価・振り返り

- ・実習や実技に対して個別にコメントします
- ・実技・実習後、全体に向けてコメントします
- ・提出物にコメント・評価をつけて返却します
- ・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を「不可」とします。各評価項目ごとの到達状況を、評価基準に沿ってどのレベルまで到達しているか測り以下の4段階で評価します。
S：設定した目標以上の到達状況である
A：十分満足できる
B：概ね満足できる
C：設定した目標に達しない

成績評価の方法・評価の割合

評価の基準

講義への参加の度合い	30%	：教育実習への意欲と心構えを持ち、適切な美術科指導案を作成できているか。討議時には、自分の意見を述べるだけでなく、他者の意見に耳を傾けることができているかを評価する。
授業内での模擬授業	50%	：学習目標に則した授業を計画し、実行できているか、自ら学ぼうとする意欲と態度を持っているかを評価する。
試験（レポート）	20%	：教育実習の成果と課題をレポートとしてまとめる。

使用教科書

指定する

著者	タイトル	出版社	出版年
京都市立芸術大学美術教育研究会 編集	美術資料 大阪府版	秀学社	2019年

参考文献等

以下の参考文献の他授業中にも適宜紹介します。
『美術科教育の基礎知識』編著 福田隆真、福本謹一、茂木一司 建帛社
『中学校学習指導要領解説 美術編』文部科学省
『高等学校学習指導要領解説 芸術(音楽 美術 工芸 書道)編』文部科学省

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は1単位の科目であるため、平均すると毎回2時間の授業外学修が求められる。「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間：	金曜日3時間目
場所：	南館研究室

授業計画

第1回	教育実習の目標・意義および心得 授業の目的、授業計画、内容紹介 授業評価について	教育実習の目標・意義について理解し、具体的な教材開発の準備を行う。	授業外学修課題にかかる目安の時間 2時間
-----	---	-----------------------------------	-------------------------

	教育実習の目標・意義を理解する。教育実習に向けて具体的な教材開発のための準備を行います。本科目の授業計画・内容、授業評価の方法、評価基準について説明します。		
第2回	教育実習事前指導 教育実習の目標・心構え 教育実習の目標が理解でき、適切に心構えができるように解説します。 また、学生の主体的意見交換により、理解を深めます。	教育実習の目標と心構えを整理し、理解が深まるようにする。	2時間
第3回	教員組織・運営・サービス上の注意点 学校現場の組織・運営・サービス上の注意点を理解できるようにします。	学校現場の組織・運営・教員のサービスについてまとめる。	2時間
第4回	授業の事例研究 教育実習に向けて具体的な授業準備をします。	授業計画、指導案を作成する。	2時間
第5回	教育実習授業と討議 (1) 教育実習に向けての具体的な授業準備をします。	授業計画、指導案を作成する。	2時間
第6回	教育実習授業と討議 (2) 模擬授業案の討議を行う。	模擬授業案の再検討をおこなう。	2時間
第7回	教育実習授業と討議 (3) 教育実習に向けて具体的な授業の準備を行います。	授業目標に合った授業指導案を作成する。	2時間
第8回	教育実習授業と討議 (4) 教育実習に向けての問題点の検討を行います。	授業の課題点を整理する。	2時間
第9回	教育実習実践演習 (1) 模擬研究授業 授業の展望と課題を相互に検討します。	模擬授業の振り返りを整理する。	2時間
第10回	教育実習実践演習 (2) 模擬研究授業 授業の展望と課題を相互に検討します。	模擬授業の振り返り、自分ができていないことは何かをまとめる。	2時間
第11回	教育実習実践演習 (3) 模擬研究授業 授業の展望と課題を相互に検討します。	適切な授業計画を作成する。	2時間
第12回	教育実習実践演習 (4) 模擬研究授業 授業の展望と課題を相互に検討します。	適切な授業計画を作成する。	2時間
第13回	教育実習実践演習 (5) 模擬研究授業 まとめと考察を行います。	模擬授業を振り返り、まとめる。	2時間
第14回	事後指導・個別の実習についての検討 実習の反省・成果について検討し整理します。	実習日誌の整理と実習校に礼状を書く。	2時間
第15回	事後指導・教育実習のまとめ 教育実習のまとめ、改善課題、気づいたことを整理します。 終了後一週間以内にレポート提出(期末試験として評価する)	自分自身の教育実習をまとめる。	2時間

授業科目名	教育実習事前事後指導				
担当教員名	柴沼真				
学年・コース等	3年/4年	開講時期	前期/後期	単位数	1
授業形態	講義・面談・模擬授業・体験発表等				
実務経験のある教員による授業科目	該当しない				
実務経験の概要					

授業概要

本学の教育実習は、原則母校の中学校、高等学校において教員になるための実習を行うことになっているが、その実習の効果を最大限に得られるようにする必要がある。そのために、この授業では、まず教育実習の目標、意義、心得および実習生として現場において必要な各種のスキルを学ぶ。実際に、学習指導案の作成、模擬授業を行って授業運営についてディスカッションする。さらに教育実習を行った後、実習体験の発表を行い、各自の教育実習を反省し評価する。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1 . DP3. 専門的知識・技能を実践で発揮する力	教育実習において必要なスキル等の獲得	授業を目標に対して適切に計画し、実行できるようになること
汎用的な力		
1 . DP5. 計画・立案力		目標に呈して適切に計画する力

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・課題（演習、調査、レポート、ケースメソッドなど）
- ・実験、実技、実習
- ・問答法・コメントを求める
- ・振り返り（振り返りシート、シャトルシートなど）
- ・発表（スピーチ、プレゼンテーションなど）

課題や取組に対する評価・振り返り

- ・実技・実習後、全体に向けてコメントします

成績評価

注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を行わない。

成績評価の方法・評価の割合

評価の基準

授業内での模擬授業	70%	： 目標に対して、適切に授業を計画し、実行できているか。
模擬授業における指導案作成	30%	： 適切に授業計画を作成できているか

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

参考文献等は講義中に適宜指示する。

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は1単位の科目であるため、平均すると毎回1時間の授業外学修が求められる。「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間：	火曜日 3 時限目
場所：	研究室
備考・注意事項：	オフィスアワー以外でも質問等があれば随時応じます。

授業計画

回数	内容	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	教育実習の目標・意義および心得 教育実習の意義を学びます。	1時間
第2回	教員組織・服務上の注意点等 教員がどのような集団で活動するかを学びます。	1時間
第3回	一般教養・マナー等 教育実習に行った際のマナーを学びます。	1時間
第4回	授業研究 1 学習指導案の作成 教育実習に向けた学習指導案を作成します。	1時間
第5回	授業研究 2 学習指導案の発表 学習指導案を発表しあって、学びます。	1時間
第6回	事前指導面談 教育実習にあたって、それぞれの注意点をディスカッションします。	1時間
第7回	模擬授業とディスカッション 1 模擬授業を行い、その内容をディスカッションします。	1時間
第8回	模擬授業とディスカッション 1 模擬授業を行い、その内容をディスカッションします。	1時間

第9回	模擬授業とディスカッション3 模擬授業を行い、その内容をディスカッションします。	受講生の模擬授業を分析しておく。	1時間
第10回	模擬授業の振り返り 模擬授業全体を振り返り、自分に足りないことは何かを学びます。	受講生の模擬授業を分析しておく。	1時間
第11回	教育実習体験発表1 先輩の教育実習の体験を聞いてディスカッションをします。	教育実習の体験をまとめておく。	1時間
第12回	教育実習体験発表2 先輩の教育実習の体験を聞いてディスカッションをします。	教育実習の体験をまとめておく。	1時間
第13回	教育実習評価、教員採用試験について1 教育実習における評価について学びます。	教員採用試験について必要な事項を調べておく。	1時間
第14回	教育実習評価、教員採用試験について2 教員採用試験について学びます。	教員採用試験について必要な事項を調べておく。	1時間
第15回	まとめ 教育実習を通して、教職力がどのように身についたかを考察します。	教育実習で何を学習したかをまとめておく。	1時間

授業科目名	教育実習 I / 教育実習 II				
担当教員名	石井理之				
学年・コース等	4年	開講時期	通年	単位数	2
授業形態	実習				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	公立中学校美術科教諭、教頭、校長及び教育委員会事務局で指導主事として勤務				

授業概要

本科目では、実習校による教育実習プログラムが中心となります。教育実習を有意義なものとするために、事前学習として既習事項の再確認を行います。実習直前に実践的な学習を行うことによって、教育実習の心得を習得し、教育実習において必要な事項の準備を行います。また、実習校における教育実習においては、観察・授業実践・生徒との対応・特別活動への参加などにより、既習内容を体験し、教師にとって必要な態度、知識・技術等資質の向上が図れるようにします。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1 . DP3. 専門的知識・技能を実践で発揮する力	教育実習のための能力の育成	教育実習の意義、目的を理解し主体的に実習に取り組むことができる。
汎用的な力		実習の持つ意味を理解し実践できる。
1 . DP6. 行動・実践		3週間の教育実習を責任をもって完遂することができる。
2 . DP7. 完遂		実習生の役割を理解し、学校運営に関わることができる。
3 . DP9. 役割理解・連携行動		

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
- ・実験、実技、実習
- ・問答法・コメントを求める
- ・振り返り(振り返りシート、チャトルシートなど)
- ・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
- ・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)
- ・ディベート、討論
- ・見学、フィールドワーク
- ・課題解決学習(PBL)

課題や取組に対する評価・振り返り

- ・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

教育実習は原則として1回でも欠席があると単位が認められません。体調を万全に整え、実習に臨むこと。欠席があると放棄とみなし、成績評価を行わない。

成績評価の方法・評価の割合

評価の基準

教育実習先および指導教員からの評価 : 教育実習に対して、適切な実習の実践と準備ができたか。
100%

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

特になし

履修上の注意・備考・メッセージ

教育実習は出席厳守。
教育実習 I・II は学外実習科目のため、欠席は許されないことを十分承知して履修すること。
本科目は2単位の科目であるため、全体で90時間の学修が求められる。
実習に参加するだけでなく、日々の準備や振り返り、事前・事後学修にも十分に力を入れること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 金曜日3時間目
場所： 南館研究室

授業計画

授業計画		授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	教育実習の目標・心得・マナー等の指導 授業の目的、授業計画、内容紹介 授業評価について 教育実習に行く際の直前の心得を学ぶ。 本科目の授業計画・内容、授業評価の方法、評価基準について説明します。	教育実習に行くために必要な内容を考えておく 4時間
第2回	教師の服務・実習日誌・板書・挨拶・返礼の指導 教師の服務・実習日誌・板書・挨拶・返礼を学びます。	しっかりと授業指導の準備をする 4時間
第3回	実習校における教育実習(1) 実習校による教育実習プログラム (1) 実習校での参与観察を通して、生徒の様子、授業および学級作りにおいて現職教師が大切にしていること、授業展開のイメージ、教師の一日、学校の様子などを理解します。 (2) 授業実習指導案を作成し、授業を行い、授業について振り返る。授業実習は、美術科以外の特別活動等の授業の場合もあります。	実習校の指導教員の指示に従って真摯に教育実習に取り組む。 4時間

第4回	実習校における教育実習(2) 実習校による教育実習プログラム (1) 実習校での参与観察を通して、生徒の様子、授業および学級作りにおいて現職教師が大切にしていること、授業展開のイメージ、教師の一日、学校の様子などを理解します。 (2) 授業実習指導案を作成し、授業を行い、授業について振り返る。授業実習は、美術科以外の特別活動等の授業の場合もあります。	実習校の指導教員の指示に従って真摯に教育実習に取り組む。	4時間
第5回	実習校による教育実習プログラム(3) 実習校による教育実習プログラム (1) 実習校での参与観察を通して、生徒の様子、授業および学級作りにおいて現職教師が大切にしていること、授業展開のイメージ、教師の一日、学校の様子などを理解します。 (2) 授業実習指導案を作成し、授業を行い、授業について振り返る。授業実習は、美術科以外の特別活動等の授業の場合もあります。	実習校の指導教員の指示に従って真摯に教育実習に取り組む。	4時間
第6回	実習校による教育実習プログラム(4) 実習校による教育実習プログラム (1) 実習校での参与観察を通して、生徒の様子、授業および学級作りにおいて現職教師が大切にしていること、授業展開のイメージ、教師の一日、学校の様子などを理解します。 (2) 授業実習指導案を作成し、授業を行い、授業について振り返る。授業実習は、美術科以外の特別活動等の授業の場合もあります。	実習校の指導教員の指示に従って真摯に教育実習に取り組む。	4時間
第7回	実習校による教育実習プログラム(5) 実習校による教育実習プログラム (3) 授業以外の実習学級経営、生徒指導、特別活動、クラブ活動、地域社会との交流等を行います。状況に応じて実習校内での校内研修にも参加し、教師の力量形成について学びます。	実習校の指導教員の指示に従って真摯に教育実習に取り組む。	4時間
第8回	実習校による教育実習プログラム(6) 実習校による教育実習プログラム (3) 授業以外の実習学級経営、生徒指導、特別活動、クラブ活動、地域社会との交流等を行います。状況に応じて実習校内での校内研修にも参加し、教師の力量形成について学びます。	実習校の指導教員の指示に従って真摯に教育実習に取り組む。	4時間
第9回	実習校による教育実習プログラム(7) 実習校による教育実習プログラム (3) 授業以外の実習学級経営、生徒指導、特別活動、クラブ活動、地域社会との交流等を行います。状況に応じて実習校内での校内研修にも参加し、教師の力量形成について学びます。	実習校の指導教員の指示に従って真摯に教育実習に取り組む。	4時間
第10回	実習校による教育実習プログラム(8) 実習校による教育実習プログラム (3) 授業以外の実習学級経営、生徒指導、特別活動、クラブ活動、地域社会との交流等を行います。状況に応じて実習校内での校内研修にも参加し、教師の力量形成について学びます。	実習校の指導教員の指示に従って真摯に教育実習に取り組む。	4時間
第11回	実習校による教育実習プログラム(9) 実習校による教育実習プログラム (4) 実習日誌の作成毎日、生徒の様子あるいは教師の仕事を含めて、実習した内容を具体的に記録する。記録を通して一日を振り返り、学んだ事や課題等を見つけ、翌日に備えます。 (5) 研究授業は教科として、授業実習の集大成です。周到な準備をして授業に臨みます。	実習校の指導教員の指示に従って真摯に教育実習に取り組む。	4時間
第12回	実習校による教育実習プログラム(10) 実習校による教育実習プログラム (4) 実習日誌の作成毎日、生徒の様子あるいは教師の仕事を含めて、実習した内容を具体的に記録する。記録を通して一日を振り返り、学んだ事や課題等を見つけ、翌日に備えます。 (5) 研究授業は教科として、授業実習の集大成です。周到な準備をして授業に臨みます。	実習校の指導教員の指示に従って真摯に教育実習に取り組む。	4時間
第13回	実習校による教育実習プログラム(11) 実習校による教育実習プログラム (4) 実習日誌の作成毎日、生徒の様子あるいは教師の仕事を含めて、実習した内容を具体的に記録する。記録を通して一日を振り返り、学んだ事や課題等を見つけ、翌日に備えます。 (5) 研究授業は教科として、授業実習の集大成です。周到な準備をして授業に臨みます。	実習校の指導教員の指示に従って真摯に教育実習に取り組む。	4時間
第14回	教育実習、実習日誌の評価 実習日誌を書き込み持参したものの評価をします。	実習日誌の最終整理をする	4時間
第15回	教育実習のまとめ 教育実習を通して、自分の教師力がどのように身についたかを考察します。	学習成果を整理しておく	4時間

授業科目名	教育実習 I				
担当教員名	柴沼真				
学年・コース等	4年	開講時期	前期	単位数	2
授業形態	学生による模擬授業、教育実習、実習体験発表				
実務経験のある教員による授業科目	該当しない				
実務経験の概要					

授業概要

昨年度の教育実習事前指導において学んだ、授業力をどのように発揮するのかという内容を振り返り、さらに直前に教育実習に行くにあたって実践的な指導を行うことにより、教育実習の心得や教育実習において必要な準備を確認する。その上で、実習校における教育実習を行い、観察・授業実践・生徒との対応・特別活動への参加などにより、教職課程で学んできた内容を体験し、その中で教師に必要な態度、知識・技術等の資質向上に努める。

養うべき力と到達目標

確かな専門性

- 1 . DP3. 専門的知識・技能を実践で発揮する力

具体的内容：

教育実習を成功させるための能力の育成

目標：

教育実習を成功させる。

汎用的な力

- 1 . DP5. 計画・立案力

適切な授業計画を設定できること。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
- ・実験、実技、実習
- ・問答法・コメントを求める
- ・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)
- ・eラーニング、反転授業
- ・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
- ・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)
- ・ディベート、討論
- ・シミュレーション型学習(ロールプレイ、ゲーム型学習など)
- ・見学、フィールドワーク
- ・課題解決学習(PBL)

課題や取組に対する評価・振り返り

- ・実技・実習後、全体に向けてコメントします
- ・提出物にコメント・評価をつけて返却します

成績評価

注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を行わない。

成績評価の方法・評価の割合

教育実習先からの評価

評価の基準

： 教育実習に対して、適切な準備と実践ができたか。

90%

期末レポート

： 教育実習でどのようなことを学んだか。

10%

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

参考文献等は講義中に適宜指示する。

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、全体で90時間の学修が求められる。実習に参加するだけでなく、日々の準備や振り返り、事前・事後学修にも十分に力を入れること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 火曜日3時限目

場所： 研究室

備考・注意事項： オフィスアワー以外でも質問等があれば随時応じます。

授業計画

回数	内容	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	教育実習の目標・心得・マナー等の指導 教育実習に行く際の心得を学びます。	4時間
第2回	教師の服務・板書・指導案の作成 教師の服務規定を学びます。	4時間
第3回	模擬授業① 第1グループ 受講生の模擬授業から学びます。	4時間
第4回	模擬授業② 第2グループ 受講生の模擬授業から学びます。	4時間
第5回	実習校における教育内容・人間関係・日誌の書き方、留意事項など 実習に向けて必要な作業を学びます。	4時間

第6回	実習校における教育実習① 教育実習で学んでもらいます。	実習先でのPDCAを実行できるようにしておく。	4時間
第7回	実習校における教育実習 ② 教育実習で学びます。	実習先でのPDCAを実行できるようにしておく。	4時間
第8回	実習校における教育実習③ 教育実習で学びます。	実習先でのPDCAを実行できるようにしておく。	4時間
第9回	実習校における教育実習④ 教育実習で学びます。	実習先でのPDCAを実行できるようにしておく。	4時間
第10回	実習校における教育実習⑤ 教育実習で学びます。	実習先でのPDCAを実行できるようにしておく。	4時間
第11回	実習校における教育実習⑥ 教育実習で学びます。	実習先でのPDCAを実行できるようにしておく。	4時間
第12回	教育実習体験発表① 第1グループ 教育実習を通じて何を学んだかを発表します。	実習で学んだ内容を整理しておく。	4時間
第13回	教育実習体験発表② 第2グループ 教育実習を通じて何を学んだかを発表します。	実習で学んだ内容を整理しておく。	4時間
第14回	実習日誌の評価 実習日誌を評価します。	実習日誌について、まとめなおす。	4時間
第15回	まとめ 教育実習を通して、自分の教師力がどのように身についたかを考察する。	学習成果を整理しておく。	4時間

授業科目名	教育実習Ⅱ				
担当教員名	柴沼真				
学年・コース等	4年	開講時期	後期	単位数	2
授業形態	学生による模擬授業、教育実習、実習体験発表				
実務経験のある教員による授業科目	該当しない				
実務経験の概要					

授業概要

昨年度の教育実習事前指導において学んだ、授業力をどのように発揮するのかという内容を振り返り、さらに直前に教育実習に行くにあたって実践的な指導を行うことにより、教育実習の心得や教育実習において必要な準備を確認する。その上で、実習校における教育実習を行い、観察・授業実践・生徒との対応・特別活動への参加などにより、教職課程で学んできた内容を体験し、その中で教師に必要な態度、知識・技術等の資質向上に努める。

養うべき力と到達目標

確かな専門性

1. DP3. 専門的知識・技能を実践で発揮する力

具体的内容：

教育実習を成功させるための能力の育成

目標：

教育実習を成功させる。

汎用的な力

1. DP5. 計画・立案力

適切な授業計画を設定できること。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・課題（演習、調査、レポート、ケースメソッドなど）
- ・実験、実技、実習
- ・問答法・コメントを求める
- ・振り返り（振り返りシート、シャトルシートなど）
- ・eラーニング、反転授業
- ・協同学習（ペアワーク、グループワークなど）
- ・発表（スピーチ、プレゼンテーションなど）
- ・ディベート、討論
- ・シミュレーション型学習（ロールプレイ、ゲーム型学習など）
- ・見学、フィールドワーク
- ・課題解決学習（PBL）

課題や取組に対する評価・振り返り

- ・実技・実習後、全体に向けてコメントします
- ・提出物にコメント・評価をつけて返却します

成績評価

注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を行わない。

成績評価の方法・評価の割合

教育実習先および指導教員からの評価 : 教育実習に対して、適切な準備と実践ができたか。
90%

評価の基準

期末レポート : 教育実習でどのようなことを学んだか。
10%

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

参考文献等は講義中に適宜指示する。

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、全体で90時間の学修が求められる。実習に参加するだけでなく、日々の準備や振り返り、事前・事後学修にも十分に力を入れること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 火曜日3時限目

場所： 研究室

備考・注意事項： オフィスアワー以外でも質問等があれば随時応じます。

授業計画

回数	内容	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	教育実習の目標・心得・マナー等の指導 教育実習に行く際の心得を学びます。	4時間
第2回	教師の服務・板書・指導案の作成 教師の服務規定を学びます。	4時間
第3回	模擬授業① 受講生の模擬授業から学びます。	4時間
第4回	模擬授業② 受講生の模擬授業から学びます。	4時間
第5回	実習校における教育内容・人間関係・日誌の書き方、留意事項など 実習に向けて必要な作業を学びます。	4時間

第6回	実習校における教育実習① 教育実習で学んでもらいます。	実習先でのPDCAを実行できるようにしておく。	4時間
第7回	実習校における教育実習② 教育実習で学びます。	実習先でのPDCAを実行できるようにしておく。	4時間
第8回	実習校における教育実習③ 教育実習で学びます。	実習先でのPDCAを実行できるようにしておく。	4時間
第9回	実習校における教育実習④ 教育実習で学びます。	実習先でのPDCAを実行できるようにしておく。	4時間
第10回	実習校における教育実習⑤ 教育実習で学びます。	実習先でのPDCAを実行できるようにしておく。	4時間
第11回	実習校における教育実習⑥ 教育実習で学びます。	実習先でのPDCAを実行できるようにしておく。	4時間
第12回	教育実習体験発表① 教育実習を通じて何を学んだかを発表します。	実習で学んだ内容を整理しておく。	4時間
第13回	教育実習体験発表② 教育実習を通じて何を学んだかを発表します。	実習で学んだ内容を整理しておく。	4時間
第14回	実習日誌の評価 実習日誌を評価します。	実習日誌について、まとめておく。	4時間
第15回	まとめ 教育実習を通して、自分の教師力がどのように身についたかを考察する。	学習成果を整理しておく。	4時間

授業科目名	教職実践演習（中・高）				
担当教員名	石井理之				
学年・コース等	4年	開講時期	後期	単位数	2
授業形態	主に演習が授業の中心となります。模擬授業を通じたディスカッションです。途中、外部講師の講義や授業見学も予定しています。最後に教職履修カルテを完成させ、認証を行います。				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	公立中学校美術科教諭、教頭、校長及び教育委員会事務局で指導主事として勤務				

授業概要

本科目では、教育実習の体験をもとに、教師として教育現場で勤務することに対する課題とその解決方法を検討します。具体的には、教師としての実践的な応用力を身につけるために、教育実習の振り返りを項目ごとに分け理解を深めたり、検証したりします。また、各回異なる題材設定による授業研究を通して、成果と課題を学生どうして討論します。さらに、外部講師を招聘した講義も設定しており、学校現場の実態や、教師に求められる資質について、実践的な知識を習得する機会となります。

養うべき力と到達目標

確かな専門性

- 1 . DP2. 専門的知識・技能、職業理解
- 2 . DP3. 専門的知識・技能を実践で発揮する力

具体的内容：

- 教職についての意識
教育実習の振り返り

目標：

- 教育実習を通して学んだこと、および自分の課題を客観的に認識できている。
教育実習で行った授業や各種取り組みについてわかりやすくプレゼンテーションができる。
自分が教師として足りないものは何か、自己分析できる。
教育実習の授業を再現する際、適切な準備ができている。
教育実習の振り返りにおいて、他の学生の例についても興味をもって意見を述べ合うことができる。

汎用的な力

- 1 . DP4. 課題発見
- 2 . DP6. 行動・実践
- 3 . DP8. 意思疎通

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
- ・実験、実技、実習
- ・問答法・コメントを求める
- ・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)
- ・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
- ・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)
- ・ディベート、討論

課題や取組に対する評価・振り返り

- ・実習や実技に対して個別にコメントします
- ・実技・実習後、全体に向けてコメントします
- ・提出物にコメント・評価をつけて返却します
- ・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を「不可」とします。各評価項目ごとの到達状況を、評価基準に沿ってどのレベルまで到達しているか測り以下の4段階で評価します。
S：設定した目標以上の到達状況である
A：十分満足できる
B：概ね満足できる
C：設定した目標に達しない

成績評価の方法・評価の割合

評価の基準

プレゼンテーション	40%	： 教育実習の振り返りにおいて、模擬授業や授業研究などのプレゼンテーションが適切にできる。
ディスカッション	20%	： 教育実習の振り返りにおいて、他の学生のプレゼンテーションに興味を持ち、積極的に討議に参加し意見を述べることができる。
教職カルテ	20%	： 教職カルテを完成させる過程を通して、自己の課題を認識・分析でき、自分がめざす教師像を描くことができる。
試験（レポート提出）	20%	： 実践的に学んだ教育の課題と成果についてレポートにまとめる。

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

以下の参考文献の他授業中にも適宜紹介します。
『美術科教育の基礎知識』編著 福田隆真、福本謹一、茂木一司 建帛社
『中学校学習指導要領解説 美術編』 文部科学省
『高等学校学習指導要領解説 芸術(音楽 美術 工芸 書道)編』 文部科学省

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 金曜日3時間目
場所： 南館研究室

授業計画			授業外学修課題にかかると自らの時間
第1回	授業の目的、授業計画、内容紹介 授業評価について 教職カルテの確認 授業形式と授業内容の確認、および諸注意についての説明を行う。教職カルテの記入状況を各自が確認し、教育実習終了時まで記入します。本科目の授業計画・内容、授業評価の方法、評価基準について説明します。	予習：教職カルテの準備。復習：授業全体の計画を確認して準備する。	4時間
第2回	教育実習の振り返り①ー生徒観ー 教育実習を通して、生徒たちとどのように向き合ってきたのか、各自の報告をもとに話し合いながら振り返ります。	予習：プレゼンテーションの準備をする。復習：実習の成果と課題について自己分析する。	4時間
第3回	教育実習の振り返り②ー題材観ー それぞれの学校現場で、教科内容はどのようなものであったかを振り返りながら、美術科の題材開発について理解を深めます。	予習：プレゼンテーションの準備。復習：授業を踏まえ、自分が扱った題材について再検証する。	4時間
第4回	教育実習の振り返り③ー指導目標と評価基準ー 学習指導案で立てた指導目標や評価基準が、実際授業を通して生徒に伝わったか、成果の有無を含めて話し合います。	予習：プレゼンテーションの準備。復習：授業を踏まえ、自分が立てた目標について再検証する。	4時間
第5回	教育実習の振り返り④ー指導計画ー 教育実習の際にどのような指導計画を立てたか、またそれは実行できたか。成果と反省点を話し合います。	予習：プレゼンテーションの準備。復習：授業を踏まえ、自分が立てた指導計画について再検証する。	4時間
第6回	教育実習の振り返り⑤ー生徒指導ー 実習中の生徒指導、またその他の教師の仕事について、各自の体験をもとに話し合います。	予習：プレゼンテーションの準備。復習：授業を踏まえ、自分が立てた指導計画について再検証する。	4時間
第7回	外部講師による講義 学校教育の現場で起こる諸問題について、外部講師の方に講義していただきます。マネジメント学部『教職実践演習』との合同授業を実施します。	教師という職業に対する自分の考えをレポートにまとめる。	4時間
第8回	外部講師による演習 外部講師の方を交えて、教師に求められる資質について話し合います。マネジメント学部『教職実践演習』との合同授業を実施します。中間ルーブリックの実施、学生ヘフィードバックします。	教師に求められる資質について、自分の考えをレポートに書く。	4時間
第9回	授業研究① B鑑賞ー印象派ー 印象派の授業をシミュレートし、その目的と成果と問題点について話し合います。	印象派の授業実践について、自分なりの意見をまとめる。	4時間
第10回	授業研究② B鑑賞ーシュルレアリスムー シュルレアリスムの授業をシミュレートし、その目的と成果と問題点について話し合います。	シュルレアリスムの授業実践について、自分なりの意見をまとめる。	4時間
第11回	授業研究③ B鑑賞ーキュビズムー キュビズムの授業をシミュレートし、その目的と成果と問題点について話し合います。	キュビズムの授業実践について、自分なりの意見をまとめる。	4時間
第12回	授業研究④ B鑑賞ー抽象絵画ー 抽象絵画についての授業をシミュレートし、その目的と成果と問題点について話し合います。	抽象絵画の授業実践について、自分なりの意見をまとめる。	4時間
第13回	授業研究⑤ B鑑賞ールネサンスー ルネサンスについての授業をシミュレートし、その目的と成果と問題点について話し合います。	ルネサンスの授業実践について、自分なりの意見をまとめる。	4時間
第14回	教職カルテの確認 教職カルテを完成させるために記入内容を確認し、未完成、不備等ないように精査します。	教職カルテのすべての項目を記入	4時間
第15回	まとめ 授業全体を振り返り、各自が理想の教師像を明確にすることができたか検証します。最終ルーブリックの実施、振り返りシートの作成、学修成果の可視化（ポートフォリオ）を行います。終了後一週間以内にレポート提出(期末試験として評価する)	自分が教職に対してどう考えているか、長所と課題を再認識し、将来に備える。	4時間

授業科目名	教職実践演習（中・高）				
担当教員名	柴沼真				
学年・コース等	4年	開講時期	後期	単位数	2
授業形態	講義だけでなく、各自の授業の振り返りなどを行うとともに、現職教員をお招きしてお話しを伺う、あるいは各自に模擬授業を実施してもらい、それについてのディスカッションをしたりします。				
実務経験のある教員による授業科目	該当しない				
実務経験の概要					

授業概要

この授業は、教育実習後に、教職につくための総仕上げとして、教職についての理解・教職において必要な技術・能力・意識などについて、自分の実習の経験を基にして、学ぶ授業です。すでに教育実習で経験してわかったと思いますが、実習ですべての事を経験するわけではありません。むしろ教育実習で学びきれなかったことから、実習後により深めて学ぶ内容まで、幅広く教職について学ぶことで、教職に就くために必要な意識を醸成します。

養うべき力と到達目標

確かな専門性

- 1 . DP2. 専門的知識・技能、職業理解

具体的内容：

実践的教職力を身に付けているか

目標：

教師の仕事を理解したうえで「そうぞう」的な授業を行えるようになる。

汎用的な力

- 1 . DP5. 計画・立案力

「そうぞう」的な計画をたてられる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・課題（演習、調査、レポート、ケースメソッドなど）
- ・実験、実技、実習
- ・問答法・コメントを求める
- ・振り返り（振り返りシート、シャトルシートなど）
- ・協同学習（ペアワーク、グループワークなど）
- ・発表（スピーチ、プレゼンテーションなど）
- ・ディベート、討論

課題や取組に対する評価・振り返り

- ・実技・実習後、全体に向けてコメントします
- ・提出物にコメント・評価をつけて返却します

成績評価

注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を行わない。

成績評価の方法・評価の割合

形成的な評価による期末レポート

評価の基準

100%

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

授業中に指示する文献等については、各自で読んでおくこと。

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 火曜日 3時限目

場所： 研究室

備考・注意事項： なにかあれば、気軽に研究室まで来てください。

授業計画

回	授業の概要説明	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	授業の概要説明 教職とは何か？ 教職実践演習とは？	4時間
第2回	教育実習を振り返る 自分の教育実習を相対化して分析する。	4時間
第3回	実習体験の分析 自分の教育実習の分析を発表し、ディスカッションを行う。	4時間
第4回	教師に必要なスキルとは？ 振り返りの中から、教師にとって必要なスキルをみつけ、スキルアップ方法を検討する。	4時間
第5回	教師に必要な心構えは？ 振り返りの中から、教師にとって必要な心構えを検討する。	4時間
第6回	現職教員から学ぶ① ゲストスピーカーとして校長先生にお話しをいただく。	4時間

第7回	現職教員から学ぶ② ゲストスピーカーとして副校長先生にお話ししていただく。	シャトルシートへのコメントと本時の内容とをつなげて考える。	4時間
第8回	現職教員から学ぶ③ ゲストスピーカーとして教頭先生にお話ししていただく。	シャトルシートへのコメントと本時の内容とをつなげて考える。	4時間
第9回	模擬授業案作成 模擬授業の指導案を作成する。	シャトルシートへのコメントと本時の内容とをつなげて考える。	4時間
第10回	模擬授業① 模擬授業を受けながら、自分の授業を振り返る。	シャトルシートへのコメントと本時の内容とをつなげて考える。	4時間
第11回	模擬授業② 模擬授業を受けながら、自分の授業を振り返る。	シャトルシートへのコメントと本時の内容とをつなげて考える。	4時間
第12回	現在の教育問題の検討 現在の教育問題から、把握しておくべき点について学ぶ。	シャトルシートへのコメントと本時の内容とをつなげて考える。	4時間
第13回	模擬授業③ 模擬授業を受けながら、自分の授業を振り返る。	シャトルシートへのコメントと本時の内容とをつなげて考える。	4時間
第14回	模擬授業④ 模擬授業を受けながら、自分の授業を振り返る。	シャトルシートへのコメントと本時の内容とをつなげて考える。	4時間
第15回	学びの総合化 教職課程全体を通して、どのような教職実践力が身についたかを考察する。	シャトルシートへのコメントと本時の内容とをつなげて考える。	4時間

授業科目名	介護体験				
担当教員名	柴沼真・石井理之				
学年・コース等	3年	開講時期	前期	単位数	2
授業形態	特別支援諸学校に2日、社会福祉施設に5日の介護現場での実習体験をおこないます。体験に先立ち、被介護者、介護方法、施設を理解するための事前学習を行った後、各施設や支援学校での介護の体験を実施します。				
実務経験のある教員による授業科目	該当しない				
実務経験の概要					

授業概要

高齢者介護および障がい者支援の基礎知識を習得し、わが国の障害者教育と障害者支援（福祉）の歴史と制度を含めた態勢について学ぶ。さらに少子高齢化の中でわが国が抱える諸問題についても考える。社会福祉施設（5日間）と特別支援学校（2日間）における事前学習、事後学習を行う。具体的には、演習の方法も一部取り入れた準備学習、実習中の指導助言、学びと課題を明確にするための事前学習をおこなう。さらに各グループごとの介護体験実習の成果、反省事項のプレゼンテーション発表を事後学習の一環として実施する。

養うべき力と到達目標

確かな専門性

- DP1. 幅広い教養やスキル

具体的内容：

教員として持つべき考え方や態度の修得。

目標：

他者の尊厳を尊重して共感的に接する態度を保つことができる。

汎用的な力

- DP9. 役割理解・連携行動

特別支援学校、施設での自ら学ぼうとする意欲と態度を持つ。教員として介護のあり方を涵養することができる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・実験、実技、実習
- ・協同学習（ペアワーク、グループワークなど）
- ・見学、フィールドワーク

課題や取組に対する評価・振り返り

- ・実技・実習後、全体に向けてコメントします
- ・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を行わない。

成績評価の方法・評価の割合

実習日誌、まとめ

評価の基準

：実習日誌、発表まとめの記述内容を評価する。

40%

実習への参加

：特別支援学校、施設での自ら学ぼうとする意欲を評価する。

50%

期末レポート作成

：実習でどのようなことを学んだか。

10%

使用教科書

指定する

著者

増田雅暢他

タイトル

『よくわかる社会福祉施設』第4版

出版社

・全国社会福祉協議会

出版年

・2015年

参考文献等

授業に必要な資料を配布するとともに、適宜参考書を紹介する。
「HOW TO 介護」 大阪府社会福祉協議会

履修上の注意・備考・メッセージ

介護体験は、出席厳守。
学外実習のため、欠席は許されないことを十分承知して履修すること。

本科目は2単位の科目であるため、全体で90時間の学修が求められる。実習に参加するだけでなく、日々の準備や振り返り、事前・事後学修にも十分に力を入れること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 火曜日 3限(堤) 水曜日 4限(石井)

場所： 西館3階堤研究室 南館2階研究室(石井)

備考・注意事項： 上記以外に質問などあるときはメールにて。Eメールには氏名と所属、学籍番号、「介護体験について」を必ず明記してください。講義の前後でも質問を受け付けます。

授業計画

回数	内容	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	社会福祉施設の概要理解と、訪問先の選択と決定 介護体験のガイダンスと社会福祉施設の理解	テキストによる該当箇所の予習 4時間
第2回	特殊教育諸学校の事前学習（特別支援学校） 特別支援学校の理解	特別支援教育の現状を調べておく。 4時間
第3回	体験する支援学校についての事前学習 介護体験に向けての学習	体験実習先の学校の詳細を調べ、整理しておく。 4時間
第4回	特殊教育諸学校での介護等体験（原則、2日以上） 介護体験の実習	実習校の指導教員の指示に従って真摯に介護体験に取り組む。 4時間

第5回	特殊教育諸学校での介護等体験（原則、2日以上） 介護体験の実習	実習校の指導教員の指示に従って真摯に介護体験に取り組む。	4時間
第6回	体験実習記録 体験実習の整理とまとめ	体験実習記録をまとめる	4時間
第7回	特別支援学校体験の反省 特別支援学校の事後学習 体験の反省 特別支援学校の事後学習 介護体験の振り返り	体験実習記録の整理 日本の社会福祉制度を調べておく	4時間
第8回	社会福祉施設の事前学習 社会福祉施設に向けての学習	テキストの該当箇所を予習	4時間
第9回	社会福祉施設での介護等体験（原則、5日以上） 社会福祉施設での介護等実習	社会福祉施設の指導教員の指示に従って真摯に介護体験に取り組む。	4時間
第10回	社会福祉施設での介護等体験（原則、5日以上） 社会福祉施設での介護等実習	社会福祉施設の指導教員の指示に従って真摯に介護体験に取り組む。	4時間
第11回	社会福祉施設での介護等体験（原則、5日以上） 社会福祉施設での介護等実習	社会福祉施設の指導教員の指示に従って真摯に介護体験に取り組む。	4時間
第12回	社会福祉施設での介護等体験（原則、5日以上） 社会福祉施設での介護等実習	社会福祉施設の指導教員の指示に従って真摯に介護体験に取り組む。	4時間
第13回	社会福祉施設での介護等体験（原則、5日以上） 社会福祉施設での介護等実習	社会福祉施設の指導教員の指示に従って真摯に介護体験に取り組む。	4時間
第14回	介護体験のまとめ 社会福祉施設での介護体験の振り返りとまとめ	事後発表の準備を進める。	4時間
第15回	事後学習 事後学習 各班で社会福祉施設での体験の成果、課題、改善点をパワーポイントで発表し相互理解を深める。提出書類を提出する。	社会福祉施設での体験の成果、課題、改善点をまとめる	4時間